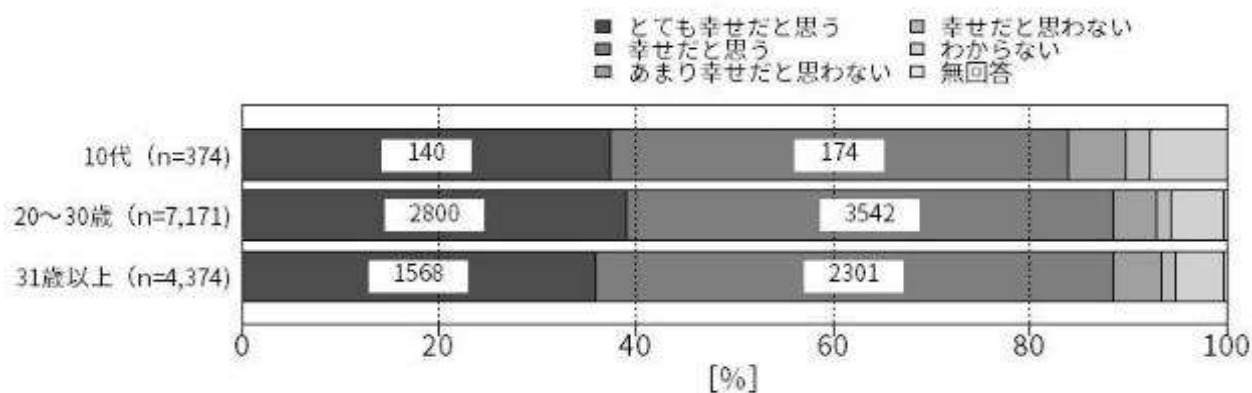


初めて親となった年齢別に見た、心の状態（４）幸せだと思う（問 33×問 36-4）

※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

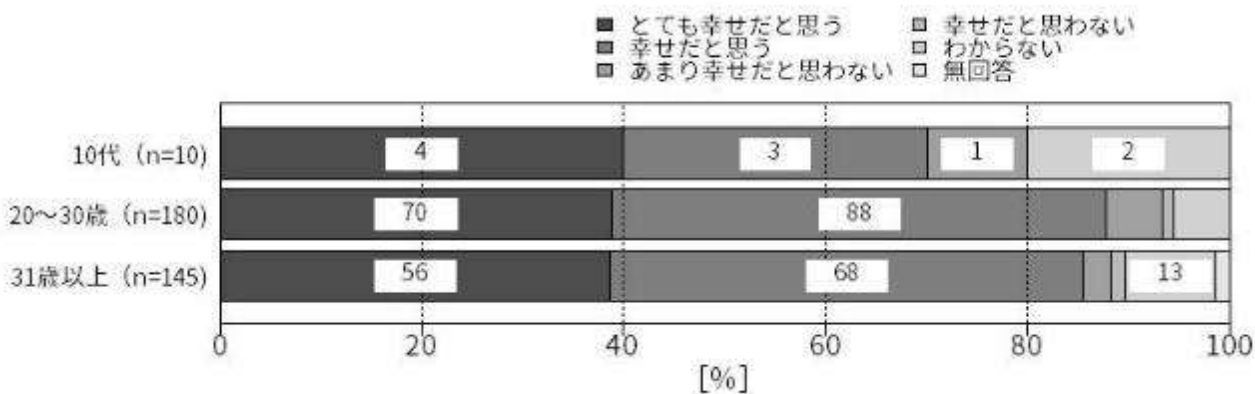


図 108. 初めて親となった年齢別に見た、心の状態（４）幸せだと思う

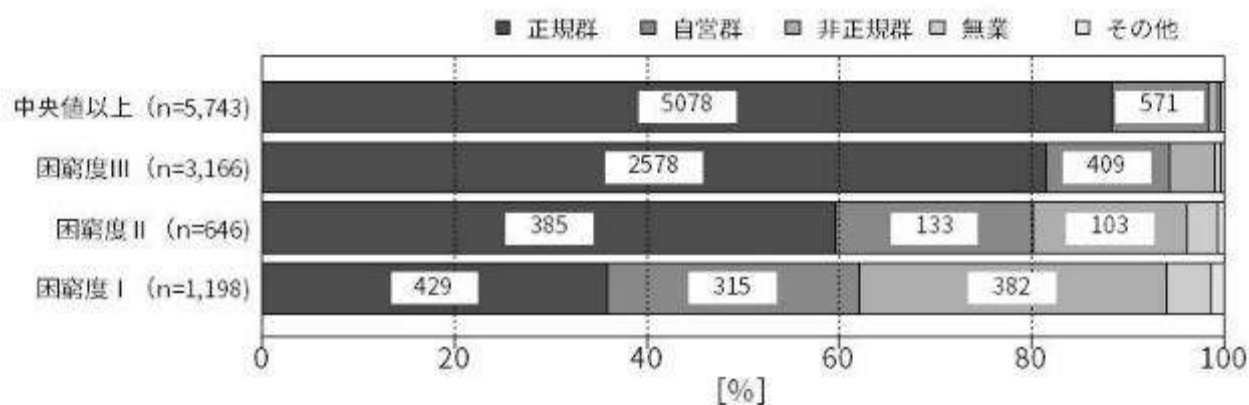
※母親が回答者の場合に限定

10 代群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできない。いずれも、「とても幸せだと思う」が４割程度となっている。

3-2. 雇用

困窮度別に見た、就労状況（問8）

<大阪市24区>



<大阪市福島区>

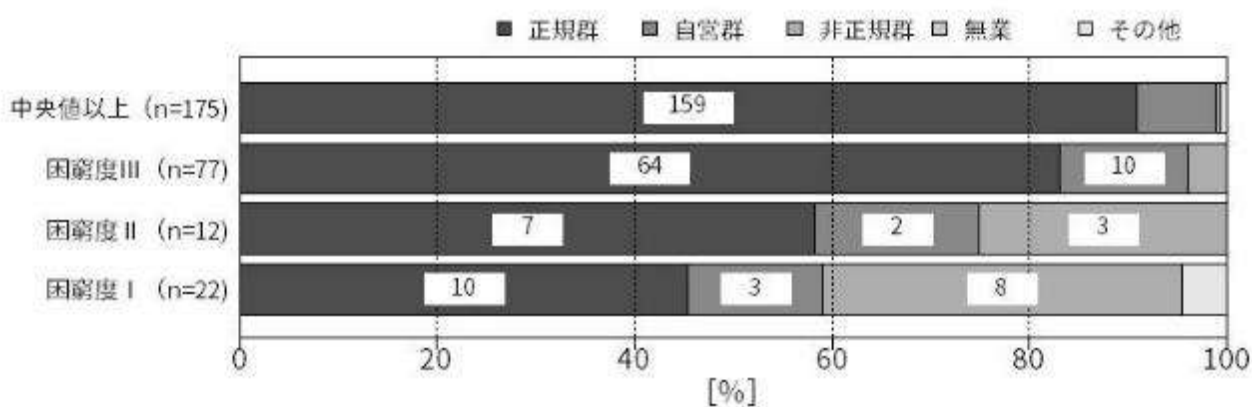


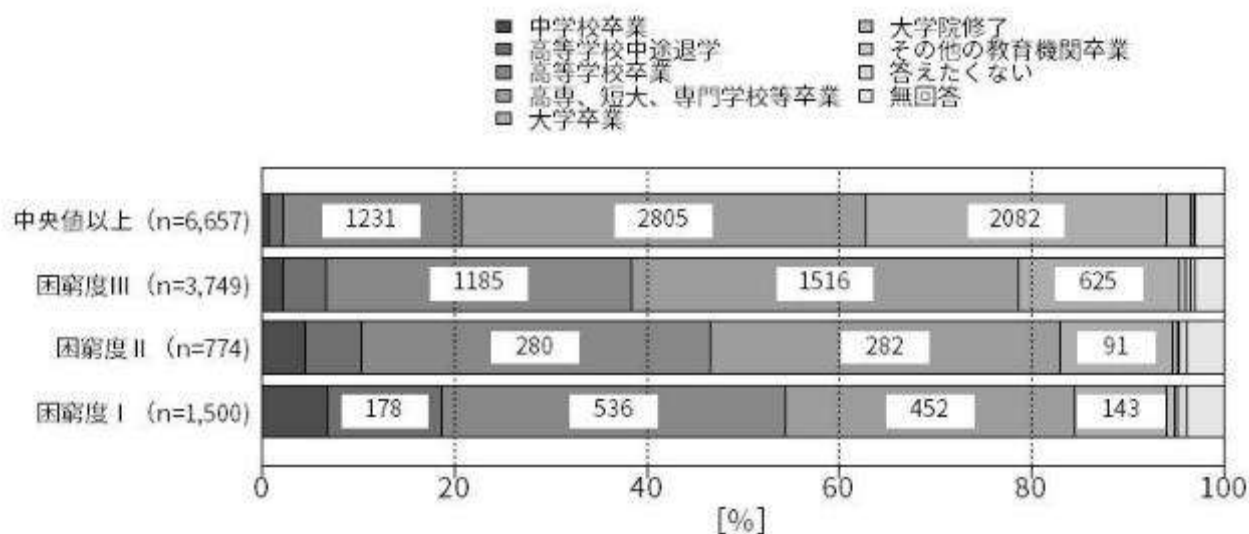
図 109. 困窮度別に見た、就労状況

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度が高まるにつれて、正規群の割合が減り、非正規群・自営群の割合が高まる傾向にあった。困窮度Ⅰ群においては、自営群は13.6%、非正規群は36.4%であった。

困窮度別に見た、母親の最終学歴（問 7-母）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

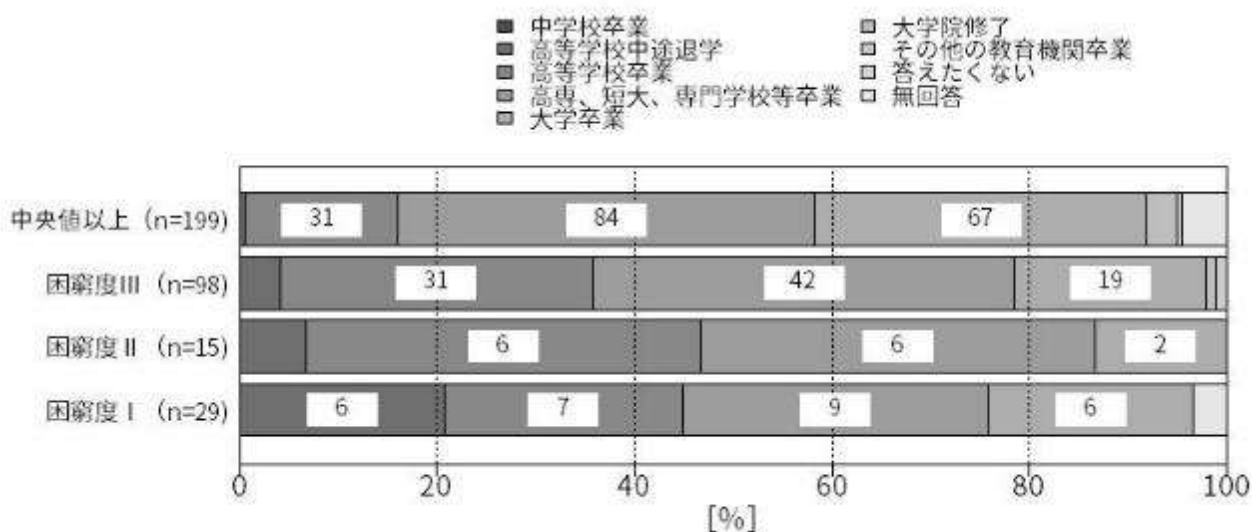


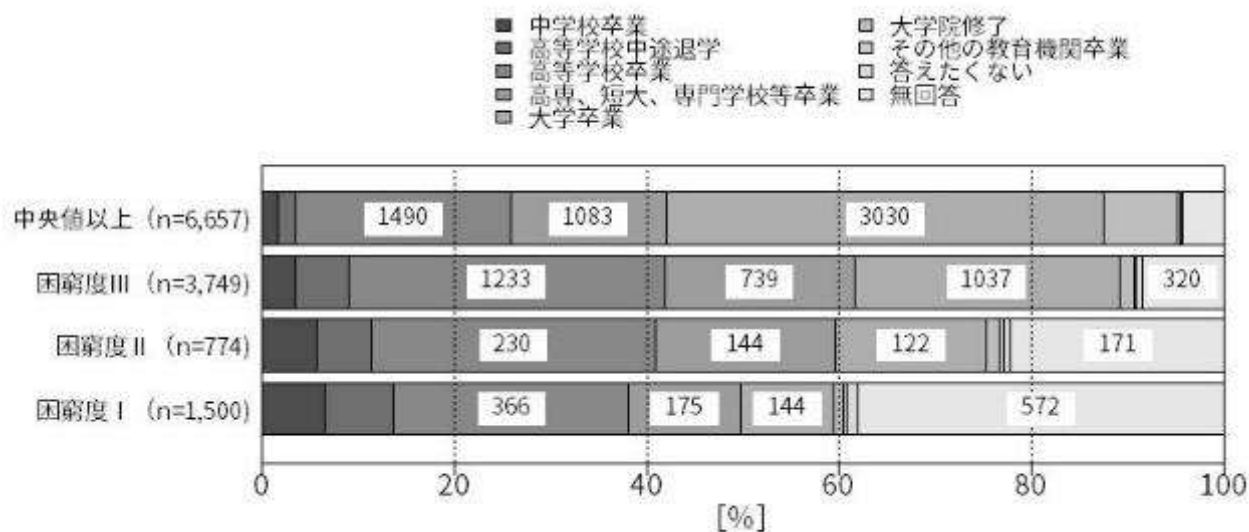
図 110. 困窮度別に見た、母親の最終学歴

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度が厳しくなるにしたがって、中卒と高校中退の割合が増える傾向にあった。困窮度Ⅰ群で「中学校卒業」は 6.3%、「高等学校中途退学」は 12.5%であった。

困窮度別に見た、父親の最終学歴（問 7-父）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

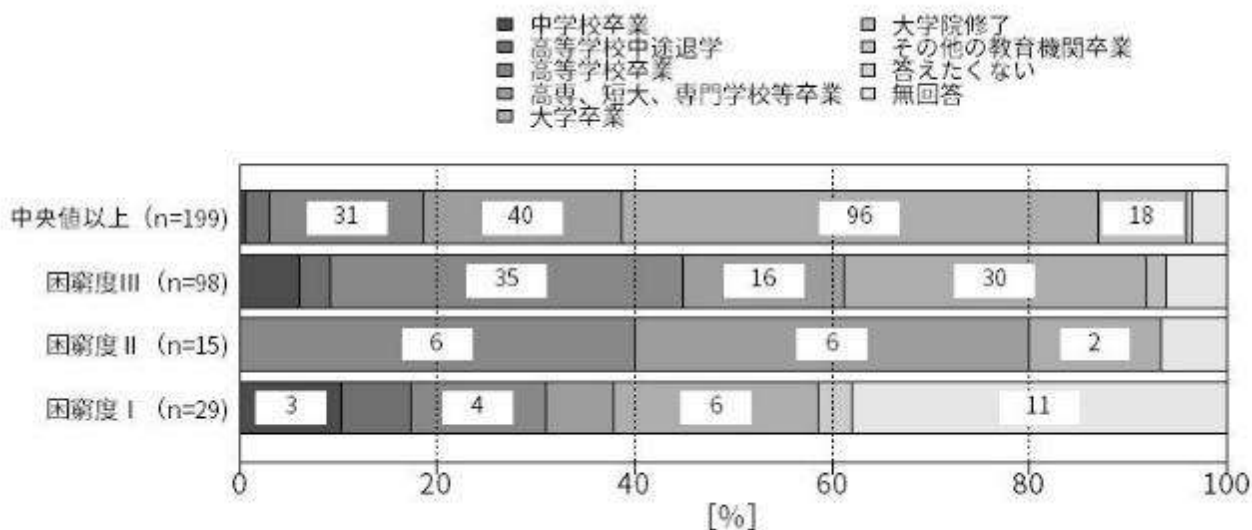


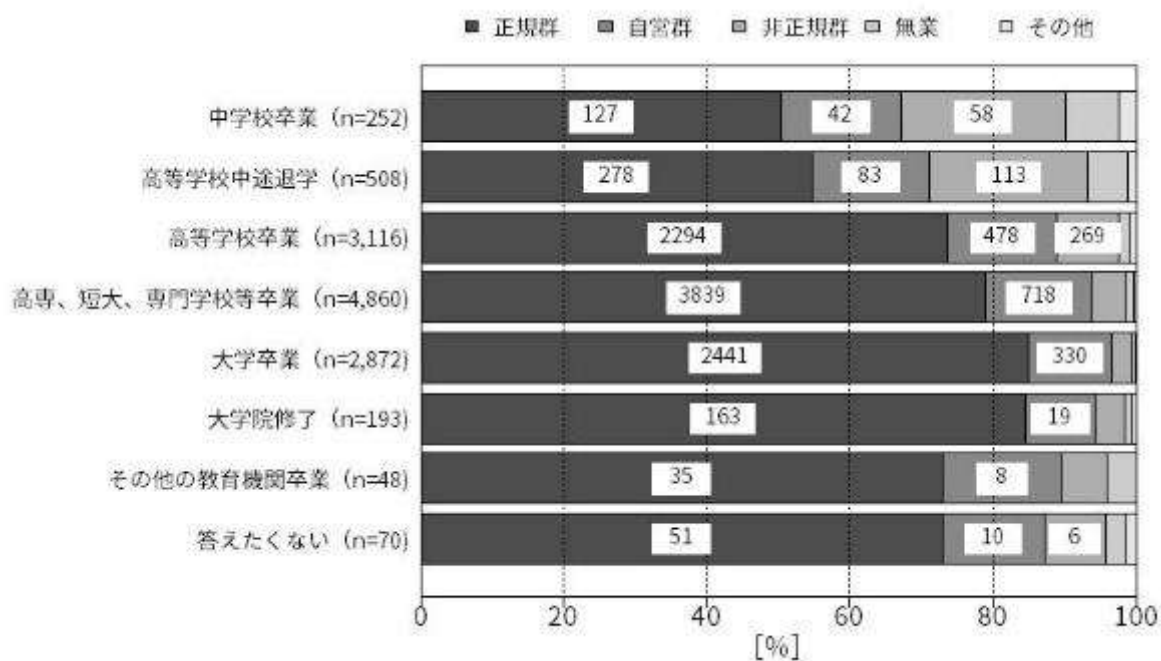
図 111. 困窮度別に見た、父親の最終学歴

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度が厳しくなるにしたがって、中卒と高校中退の割合が増える傾向にあった。困窮度Ⅰ群で「中学校卒業」は10.4%、「高等学校中途退学」は4.2%であった。

母親の最終学歴別に見た、就労状況（問7×問8）

<大阪市24区>



<大阪市福島区>

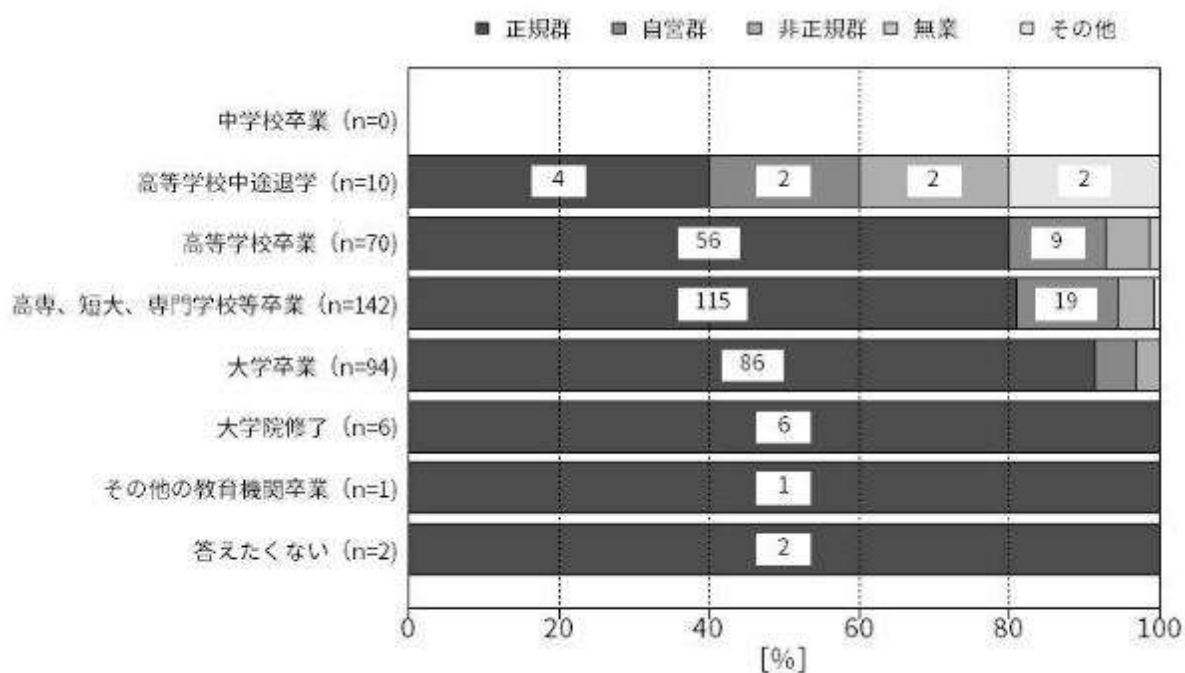
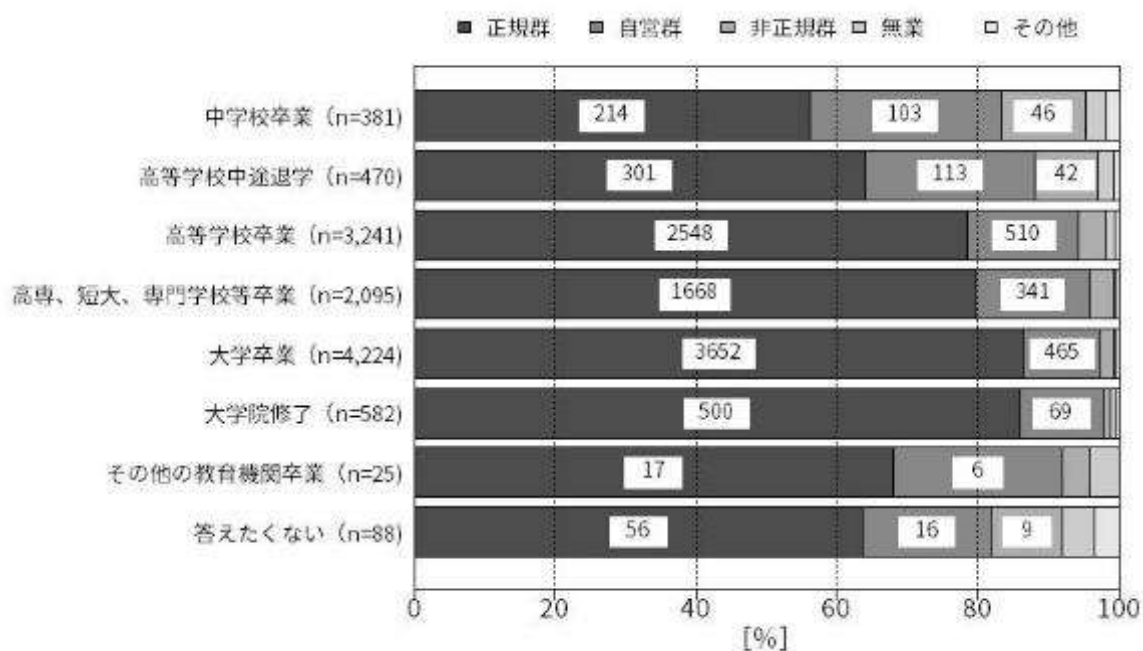


図 112. 母親の最終学歴別に見た、就労状況

学歴が高くなるにつれて、概ね、正規群の割合が高くなる。

父親の最終学歴別に見た、就労状況（問7×問8）

<大阪市24区>



<大阪市福島区>

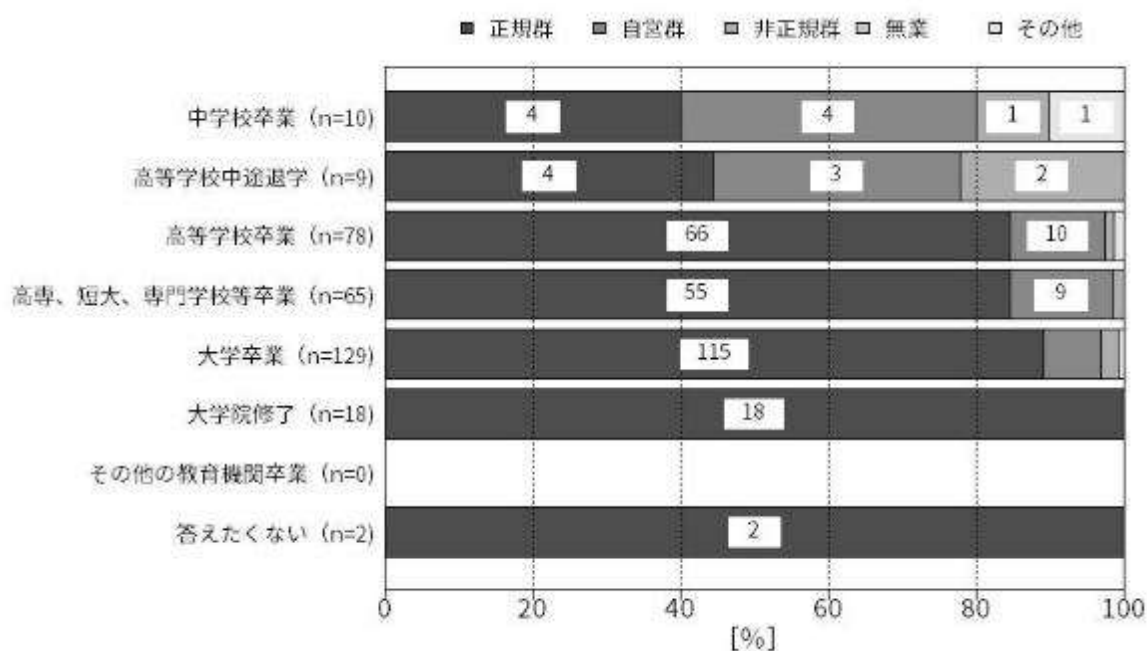
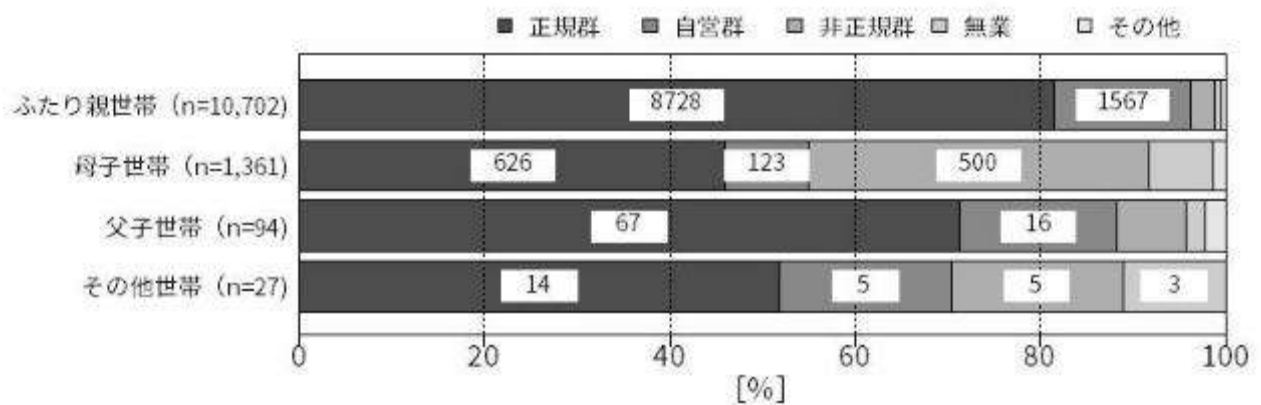


図 113. 父親の最終学歴別に見た、就労状況

学歴が高くなるにつれて、概ね、正規群の割合が高くなる。

世帯構成別に見た、就労状況（問1×問8）

<大阪市24区>



<大阪市福島区>

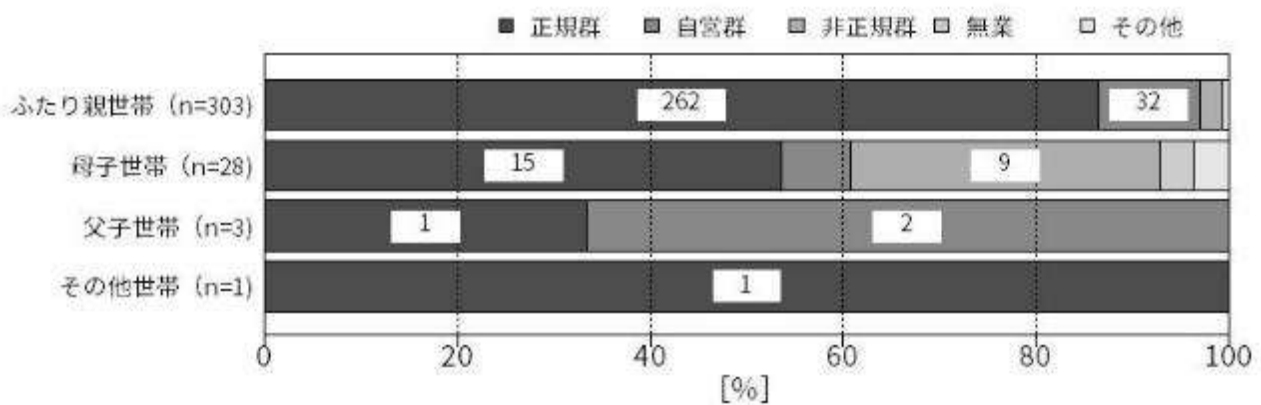
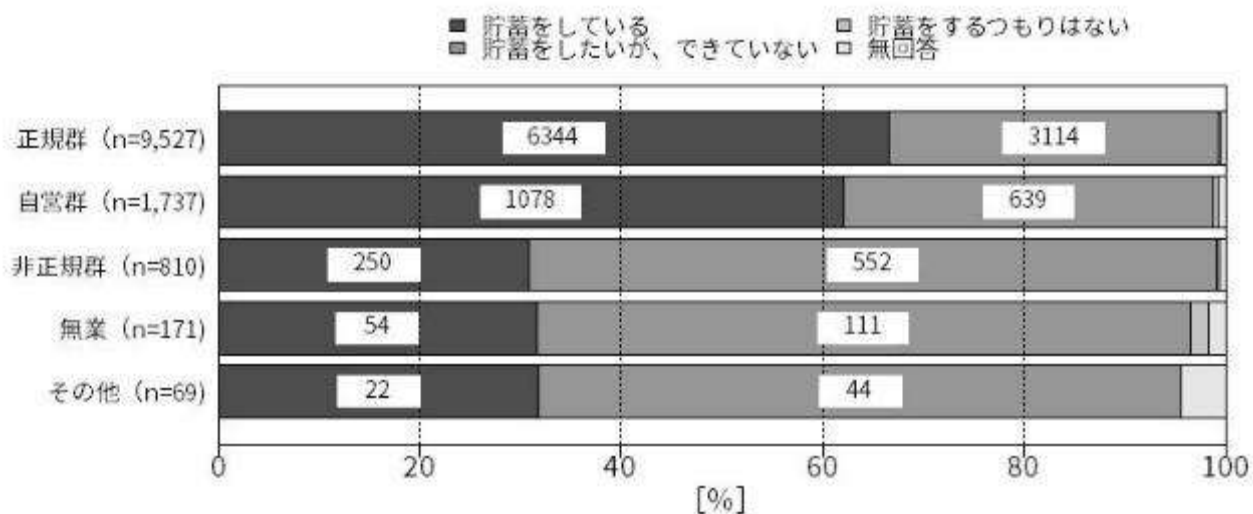


図 114. 世帯構成別に見た、就労状況

ふたり親世帯では、正規群の割合が高かった。母子世帯では正規群の割合が 53.6%であった。

就労状況別に見た、子どものための貯蓄（問 8×問 5-3）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

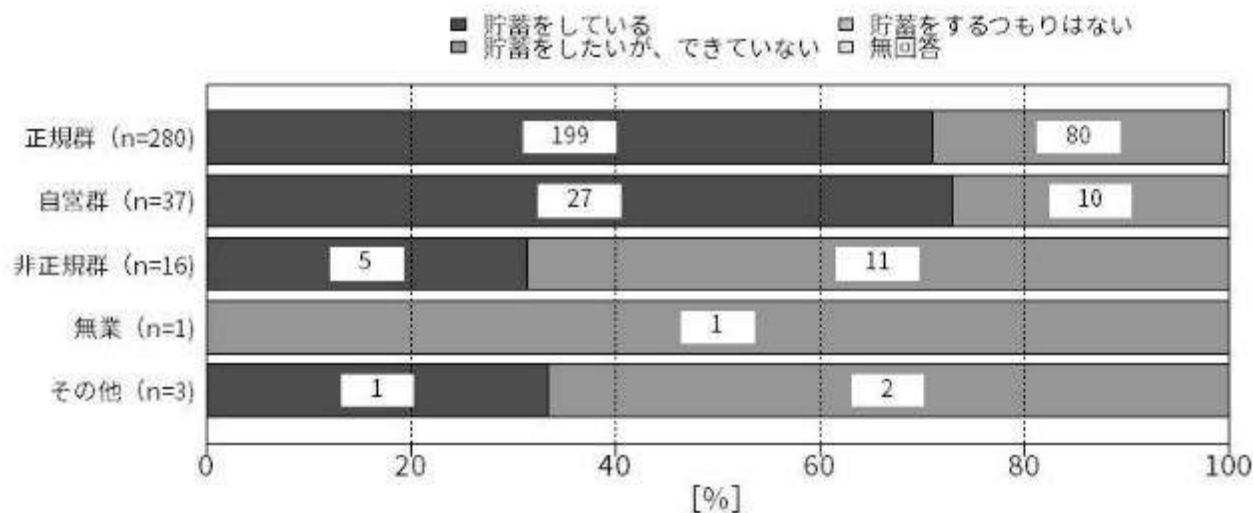
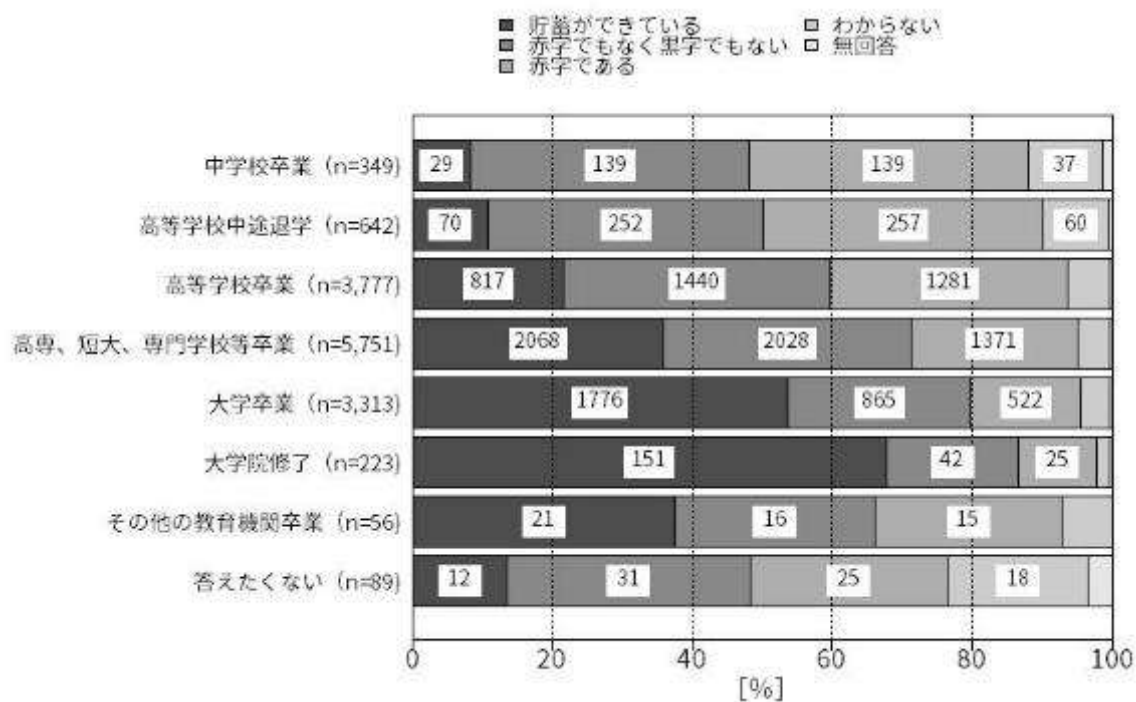


図 115. 就労状況別に見た、子どものための貯蓄

正規群では貯蓄ができている割合が高く、いずれも7割を超えていた。

母親の最終学歴別に見た、家計状況（問7×問5-1）

<大阪市24区>



<大阪市福島区>

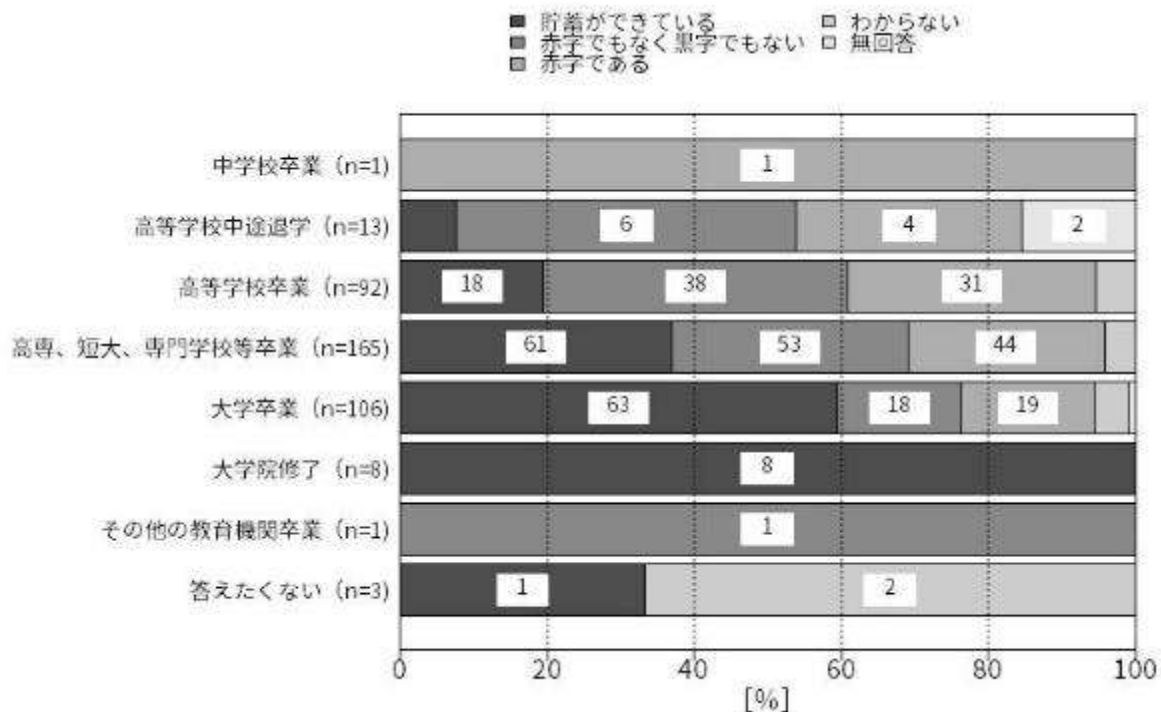
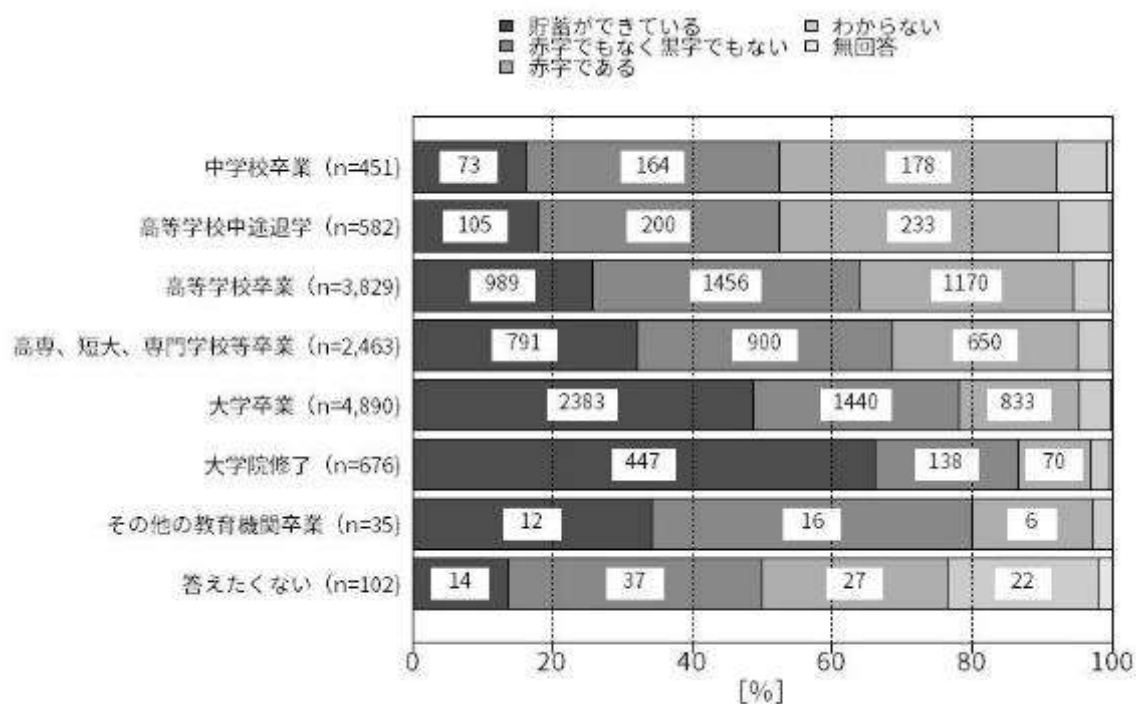


図 116. 母親の最終学歴別に見た、家計状況

学歴が高いほど、貯蓄ができている割合が高く、赤字である割合が低くなる。

父親の最終学歴別に見た、家計状況（問 7×問 5-1）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

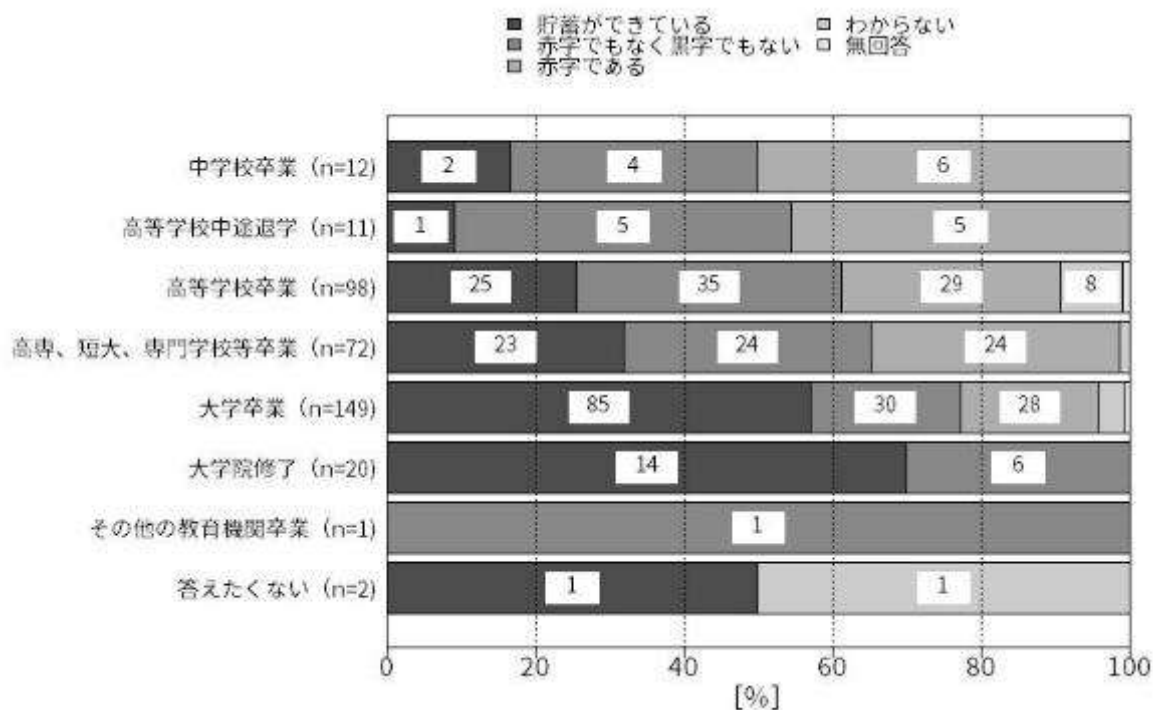
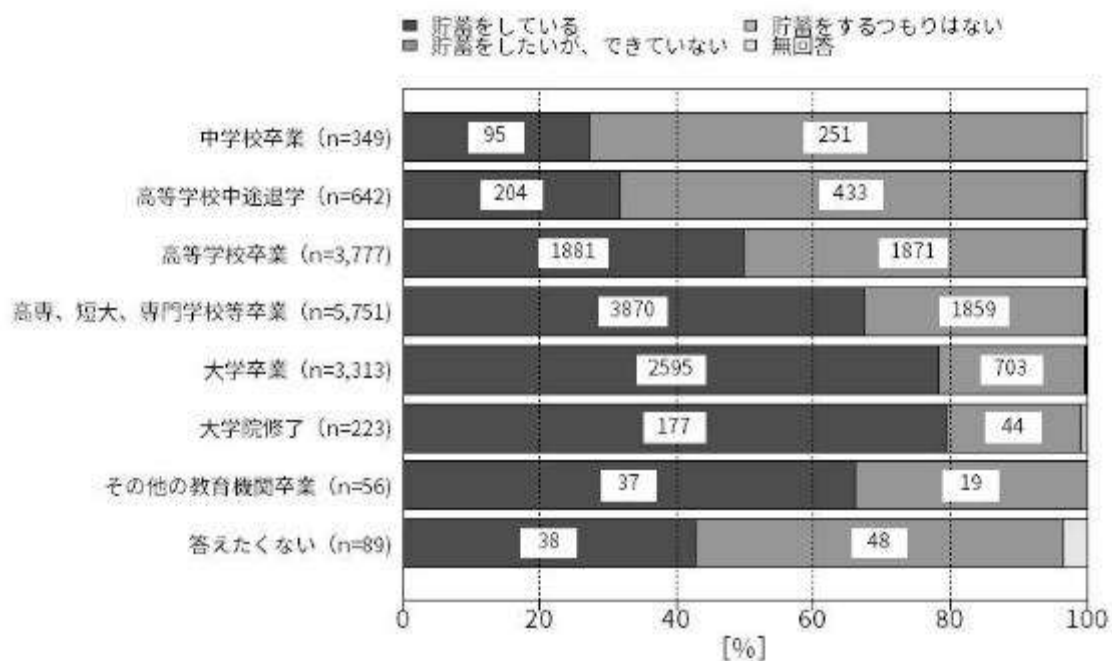


図 117. 父親の最終学歴別に見た、家計状況

学歴が高いほど、貯蓄ができていない割合が高く、赤字である割合が低くなる。

母親の最終学歴別に見た、子どものための貯蓄（問7×問5-3）

<大阪市24区>



<大阪市福島区>

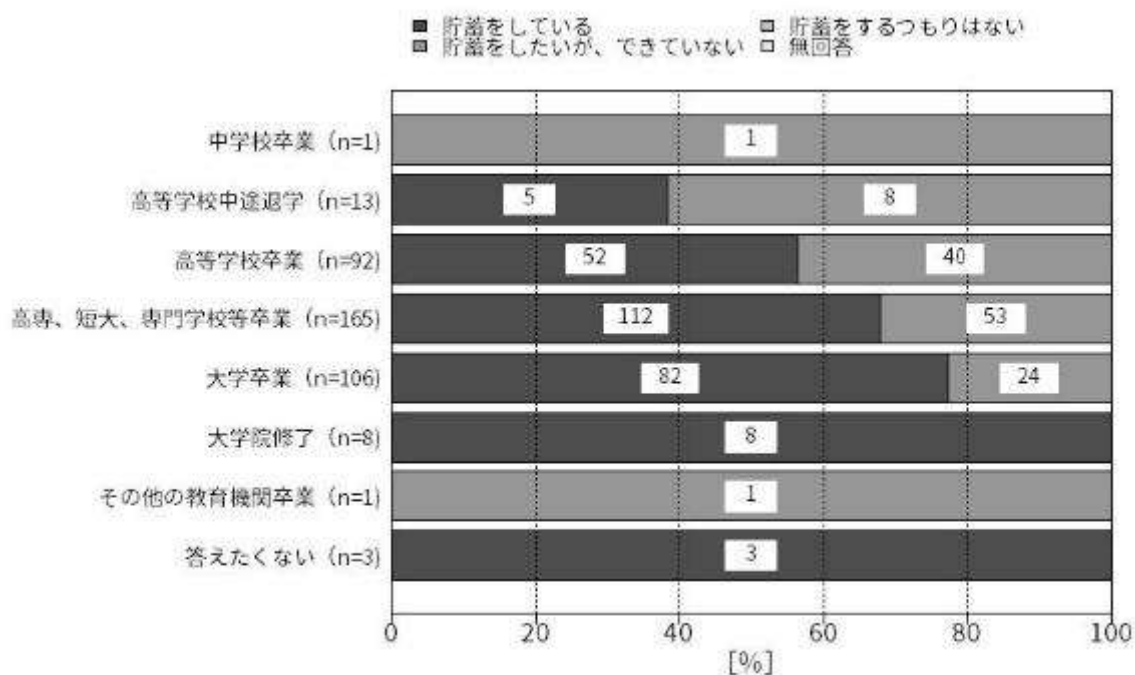
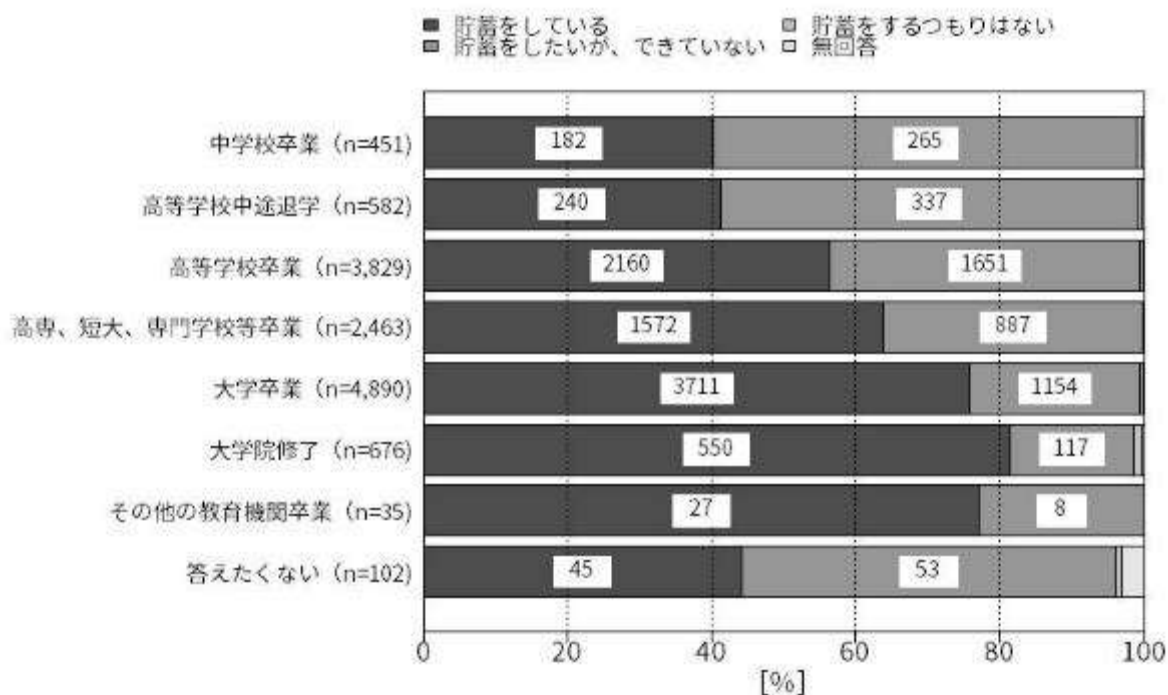


図 118. 母親の最終学歴別に見た、子どものための貯蓄

学歴が高いほど、貯蓄ができている割合が高くなる。大学卒業群では77.4%が子どものために貯蓄をしていた。

父親の最終学歴別に見た、子どものための貯蓄（問7×問5-3）

<大阪市24区>



<大阪市福島区>

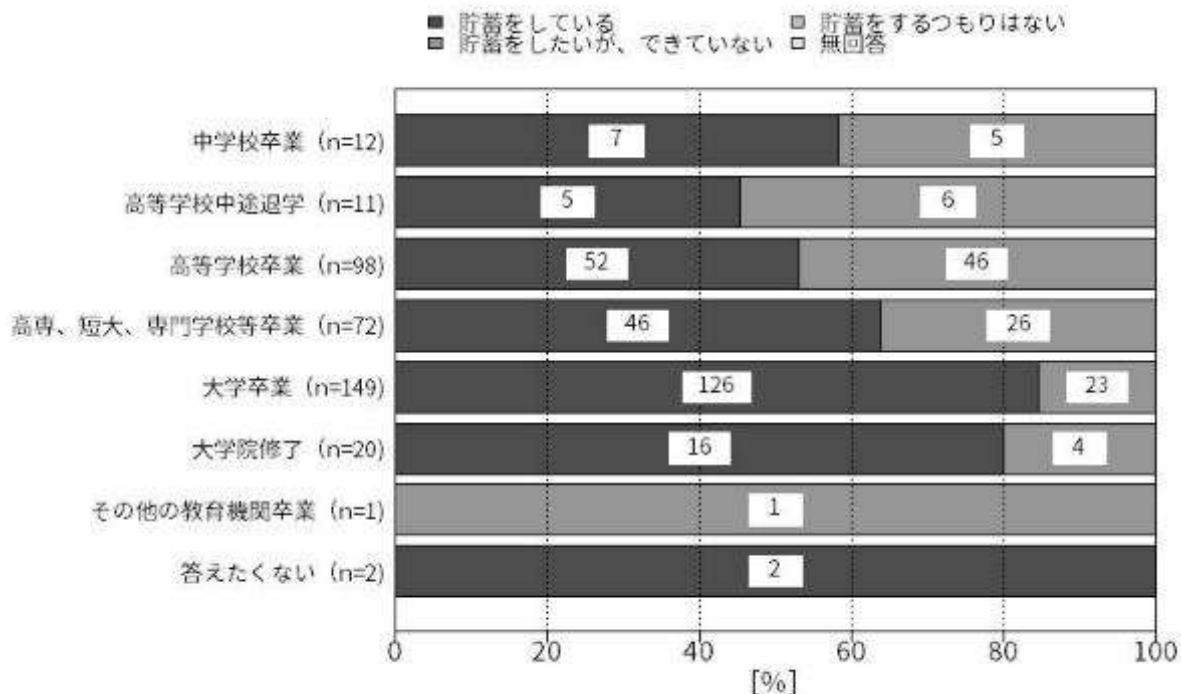


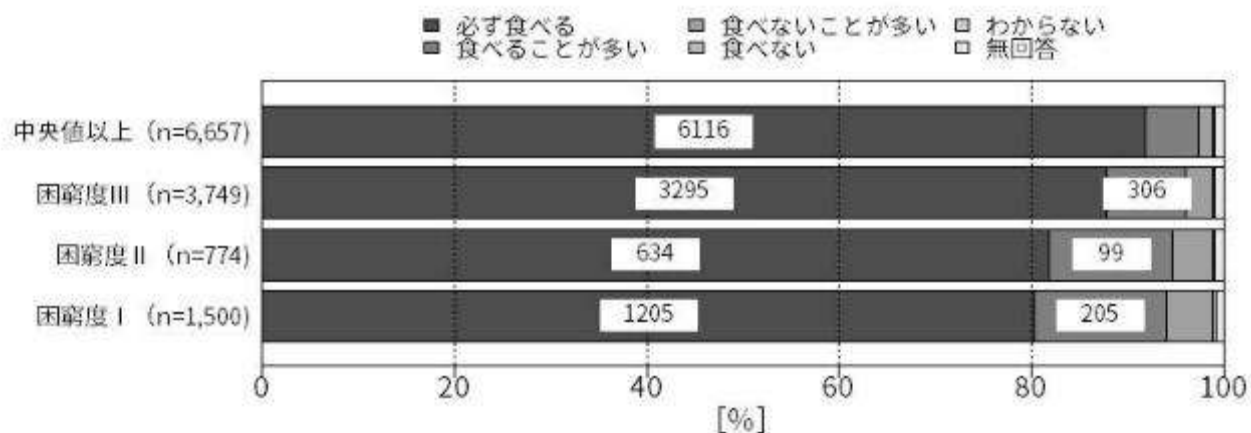
図 119. 父親の最終学歴別に見た、子どものための貯蓄

学歴が高いほど、貯蓄ができている割合が高くなる。大学卒業群では84.6%が子どものために貯蓄をしていた。

3-3. 健康

困窮度別に見た、朝食の頻度（問 17）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

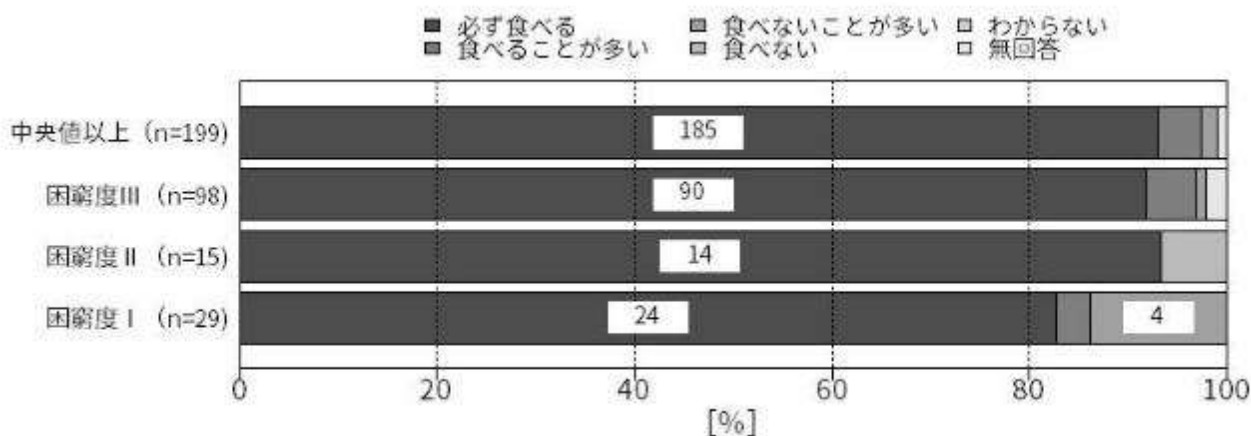


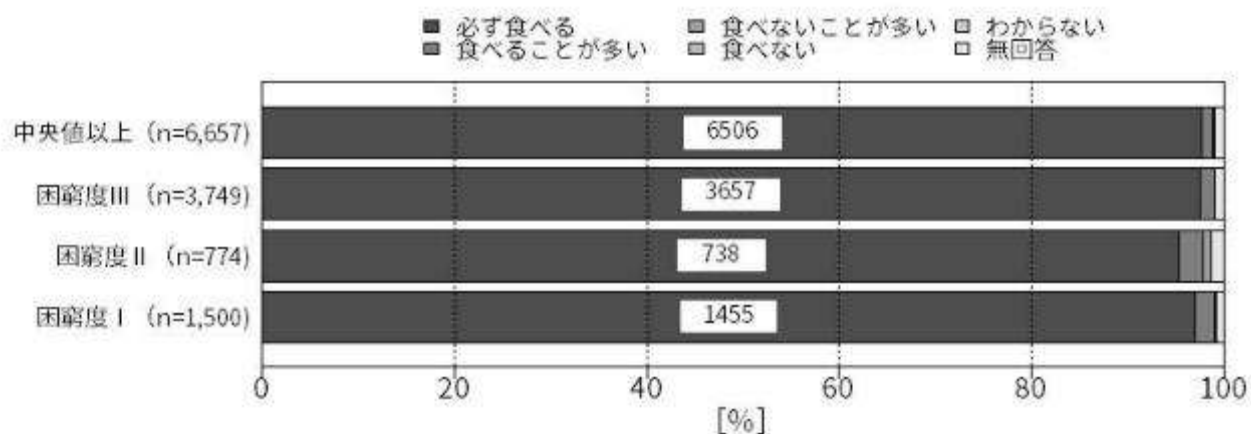
図 120. 困窮度別に見た、朝食の頻度

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度が厳しくなるにしたがって、「必ず食べる」の割合が低くなる傾向にあり、困窮度Ⅰ群においては 82.8%となっている。

困窮度別に見た、夕食の頻度（問 20）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

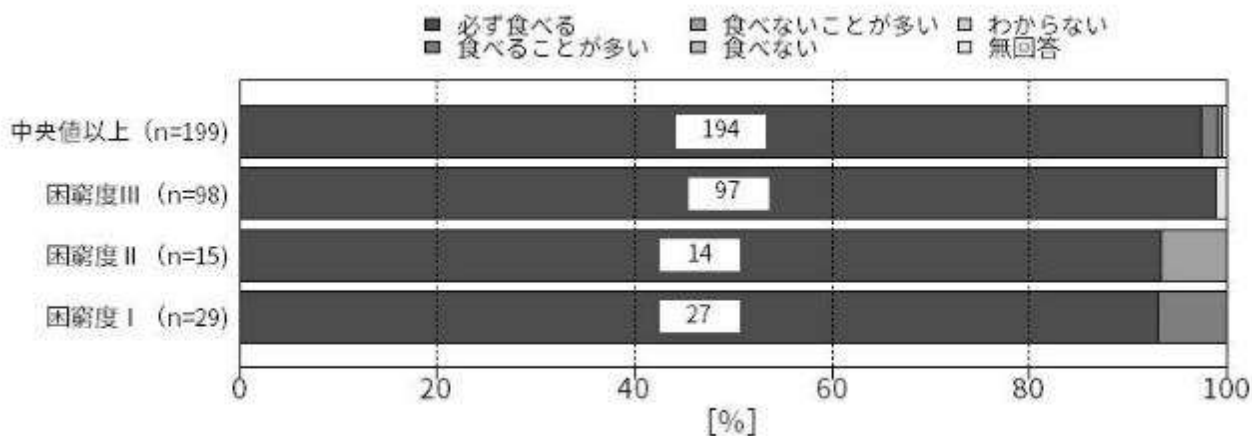


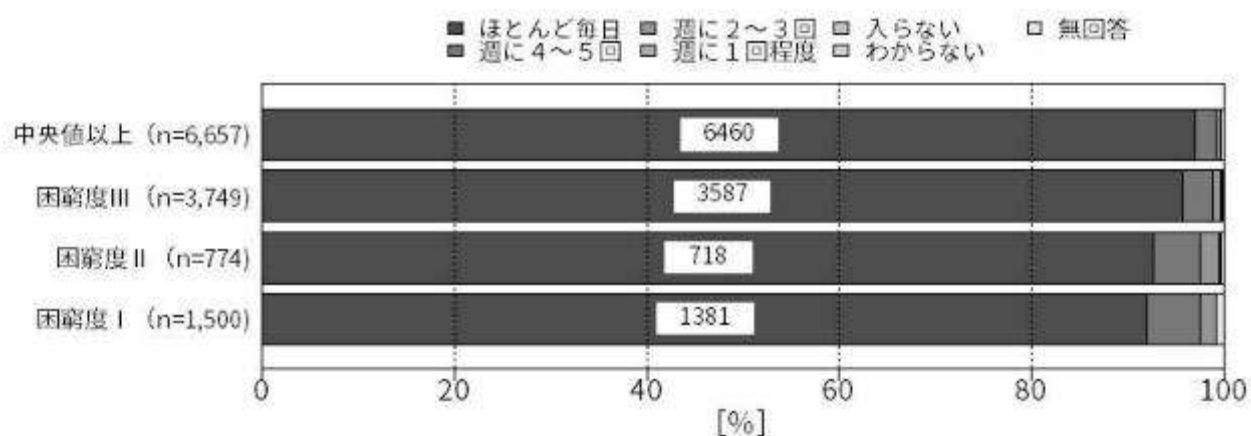
図 121. 困窮度別に見た、夕食の頻度

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度が厳しくなるにしたがって、「必ず食べる」の割合が低くなる傾向にあり、困窮度Ⅰ群においては 93.1%となっている。

困窮度別に見た、入浴頻度（問 23）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

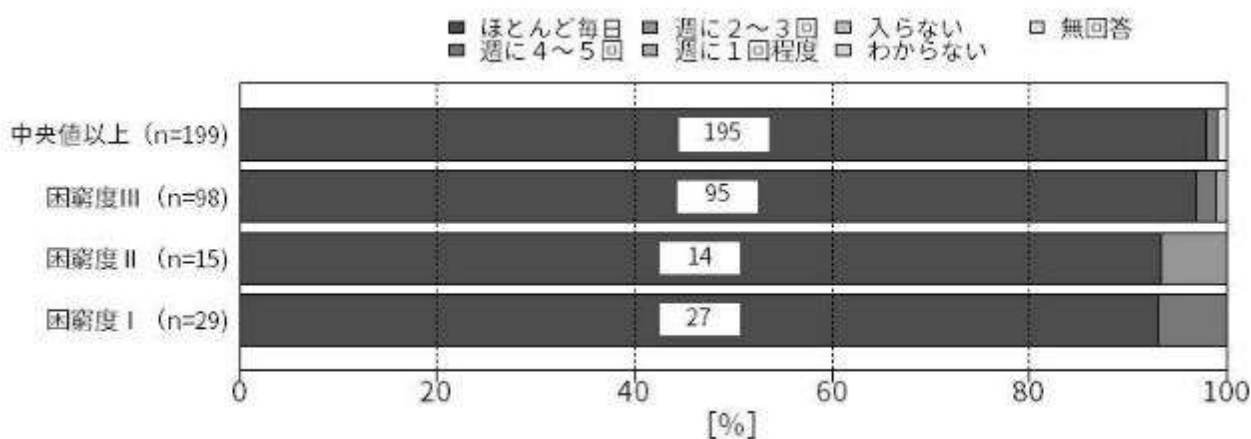


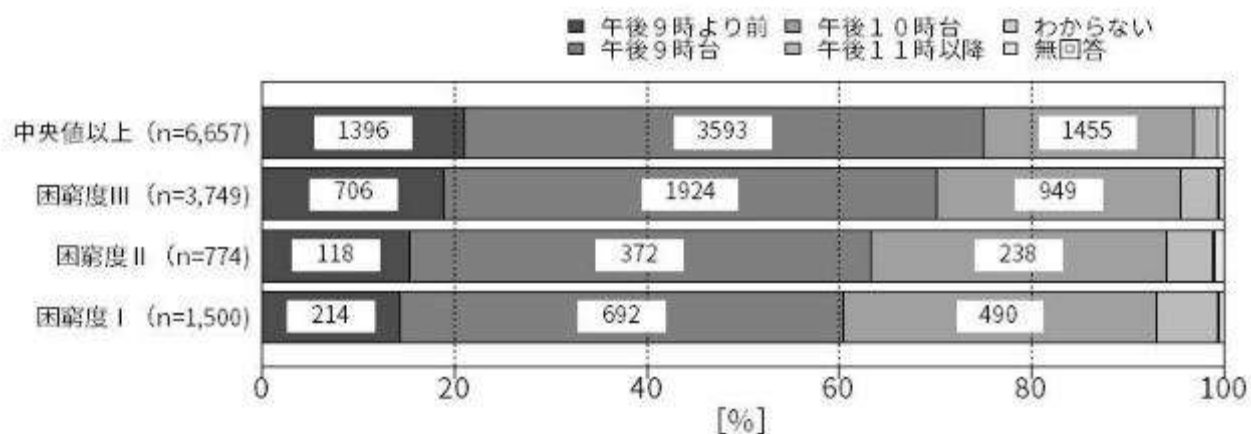
図 122. 困窮度別に見た、入浴頻度

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度が厳しくなるにしたがって、お風呂にほとんど毎日入る頻度が低くなる傾向にあり、困窮度Ⅰ群においては93.1%となっている。

困窮度別に見た、就寝時間（問 16）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

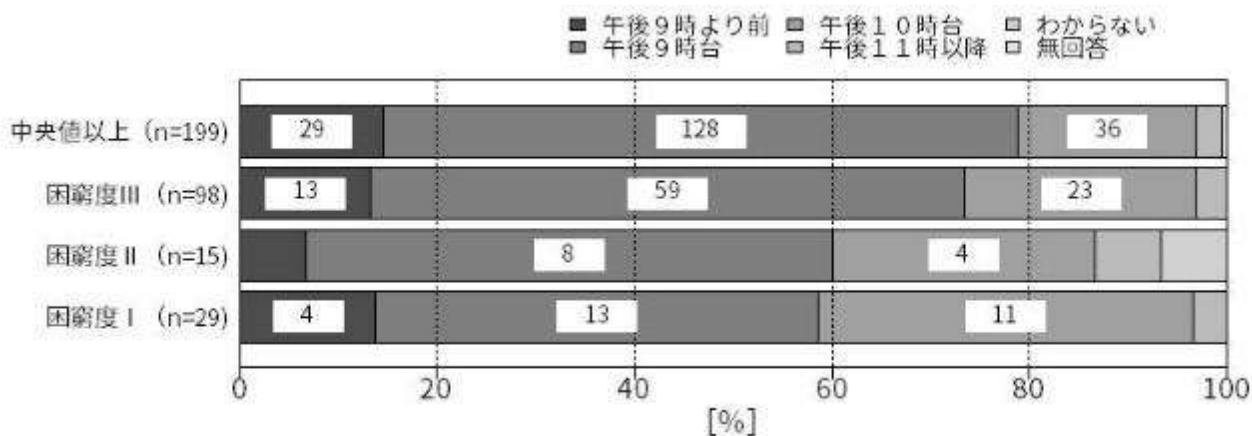


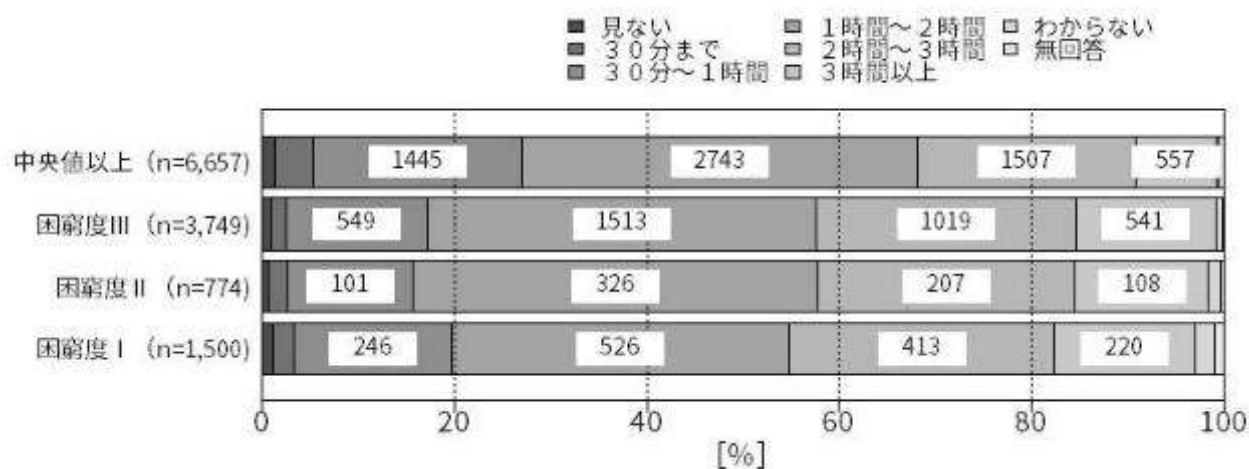
図 123. 困窮度別に見た、就寝時間

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度が厳しくなるにしたがって、就寝時間が遅くなる傾向にあった。困窮度Ⅰ群においては午後10時台と回答した割合がやや高く、37.9%となっている。

困窮度別に見た、テレビ視聴時間（問 24）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

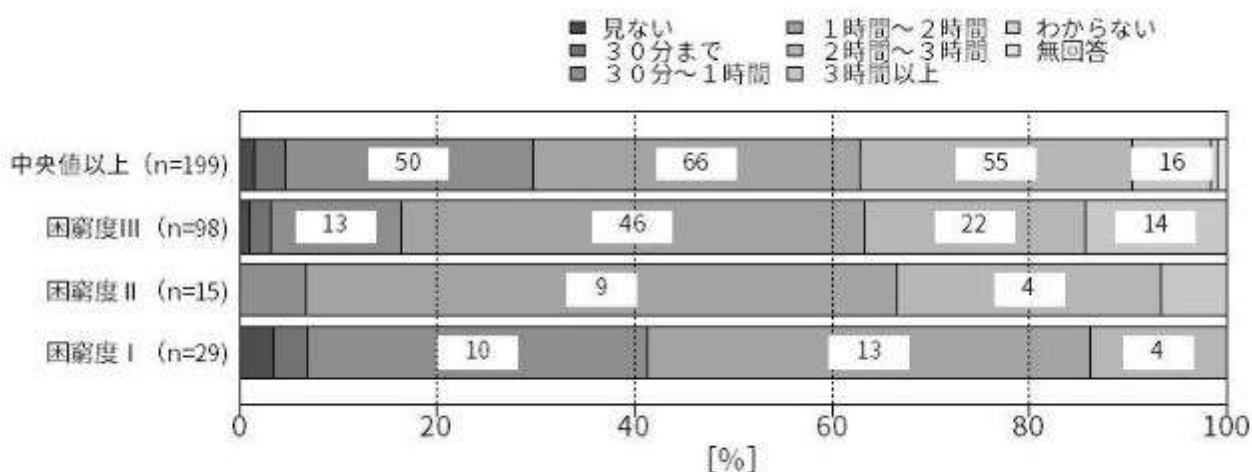


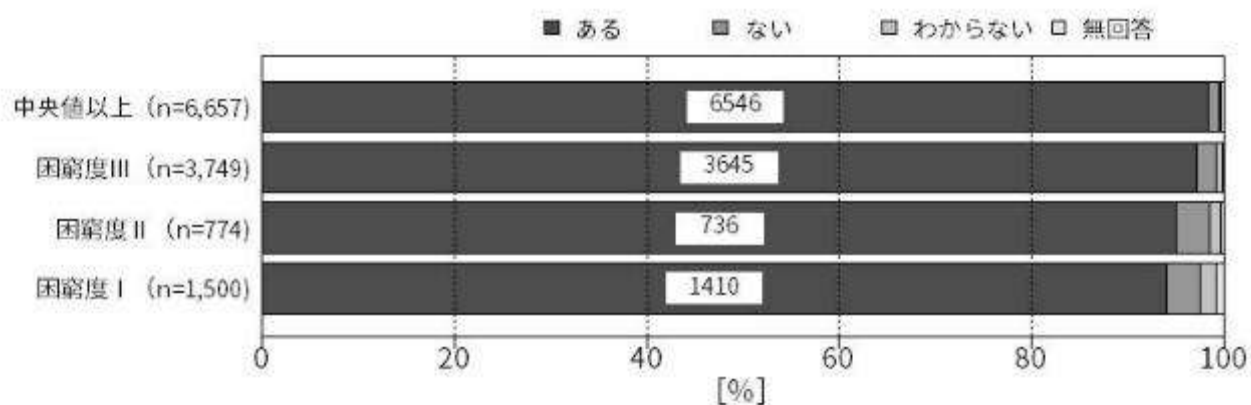
図 124. 困窮度別に見た、テレビ視聴時間

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度が厳しくなるにしたがって、視聴時間が長くなる傾向にあった。中央値以上群では「見ない」～「1時間～2時間」の回答を選択した割合が高く、約 6 割となっている。

困窮度別に見た、歯磨きの習慣（問 25）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

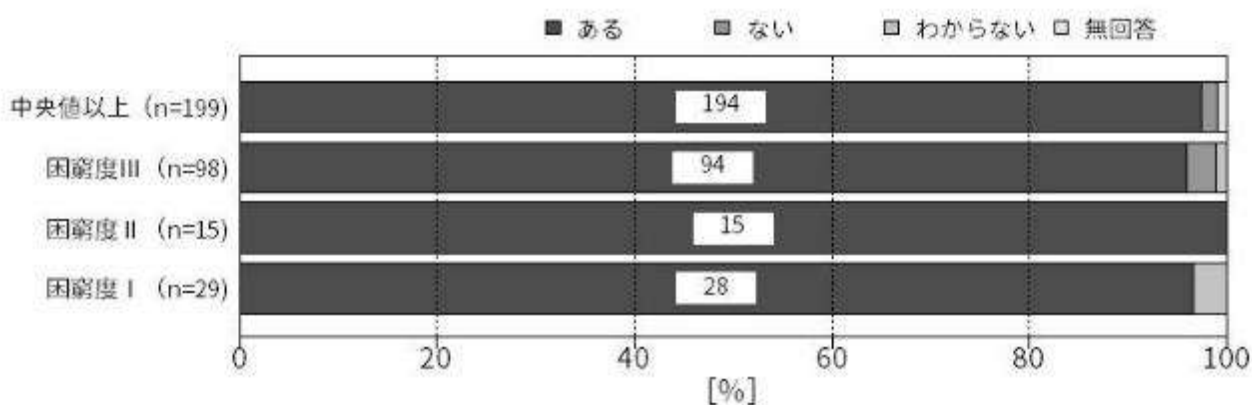


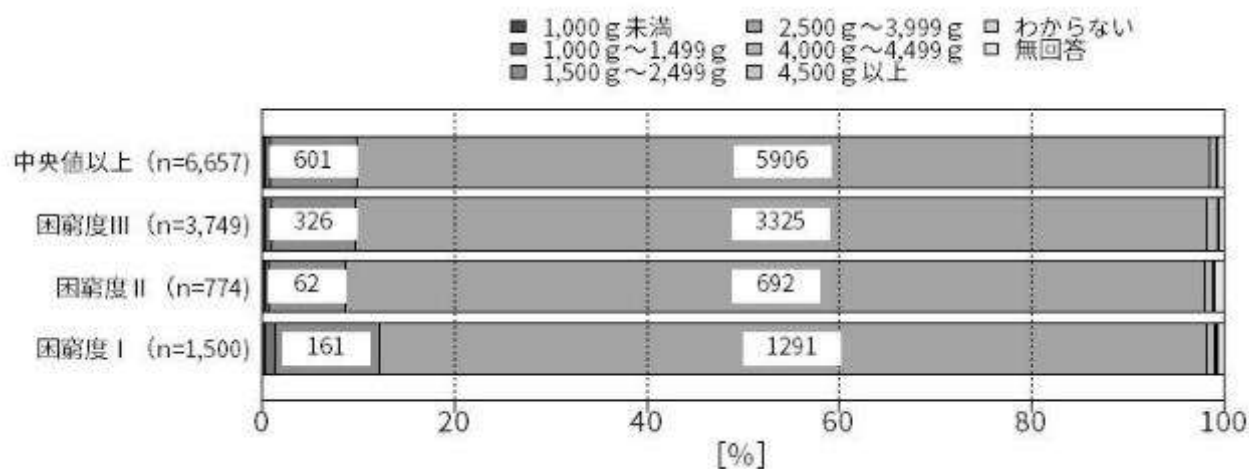
図 125. 困窮度別に見た、歯磨きの習慣

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度が厳しくなるにしたがって、歯磨きの習慣が「ある」の割合が低くなる傾向にあった。

困窮度別に見た、出生時体重（問 11）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

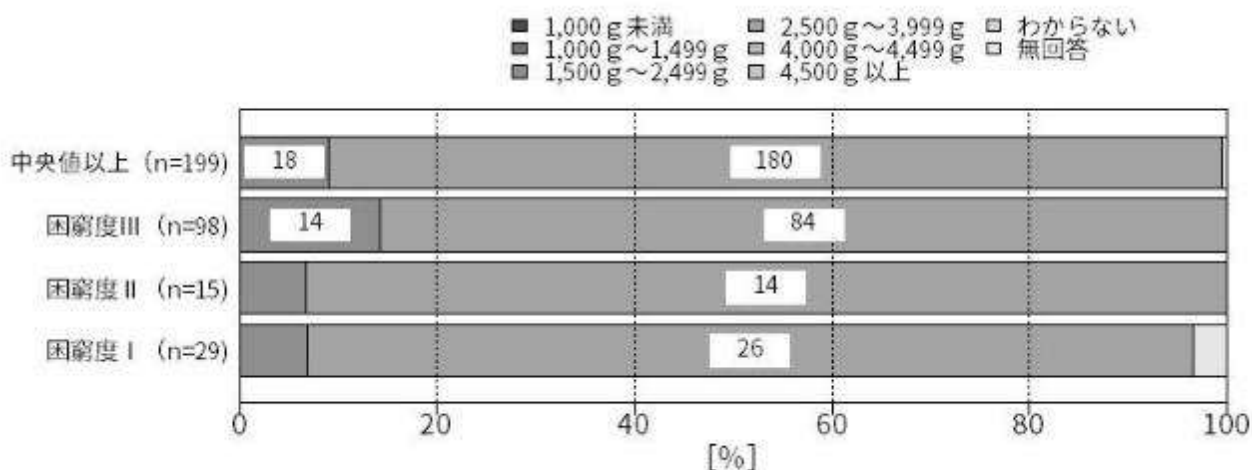


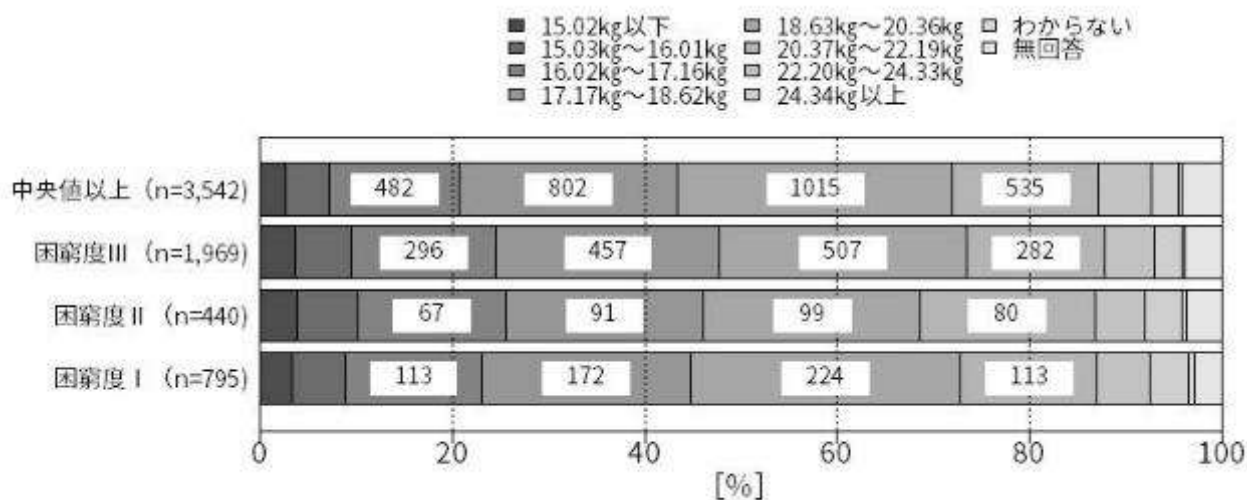
図 126. 困窮度別に見た、出生時体重

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度による大きな差は見られなかった。

困窮度別に見た、現在の体重（問 13-1）＜男子＞

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

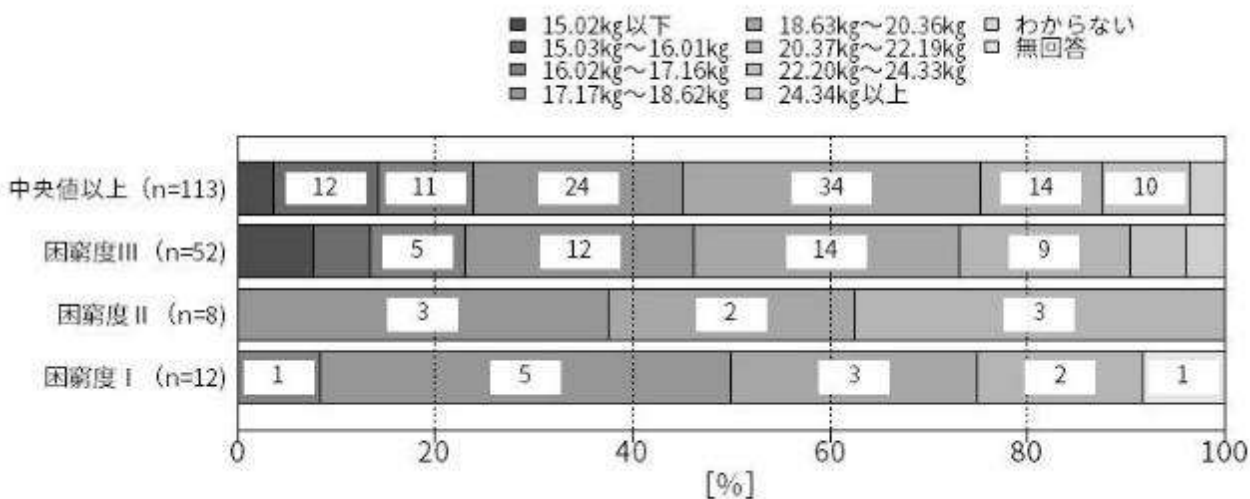


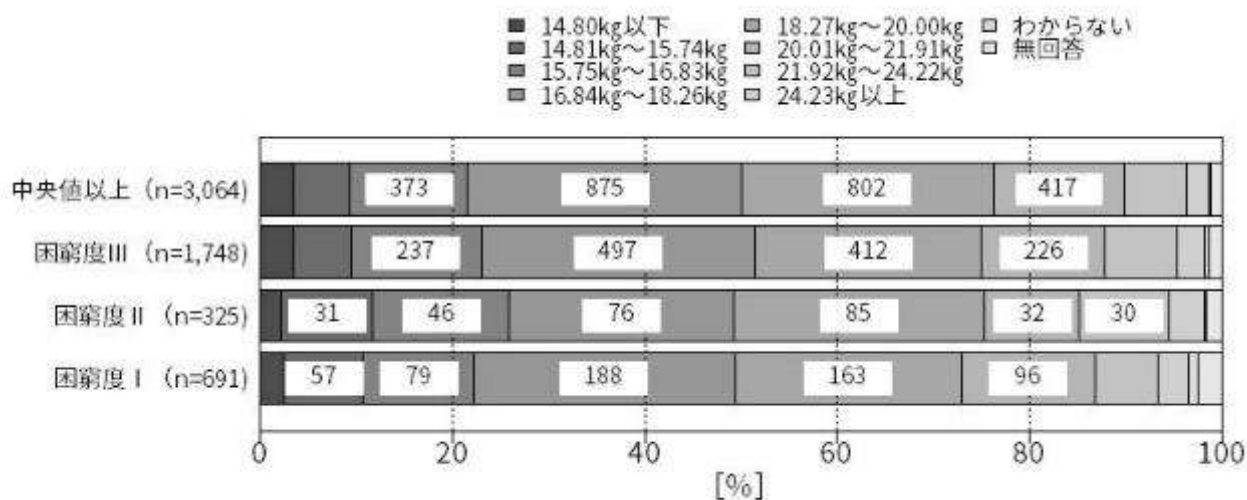
図 127. 困窮度別に見た、現在の体重＜男子＞

困窮度Ⅰ群・困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度と現在の体重（男子）に関係は見られなかった。

困窮度別に見た、現在の体重（問 13-2）＜女子＞

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

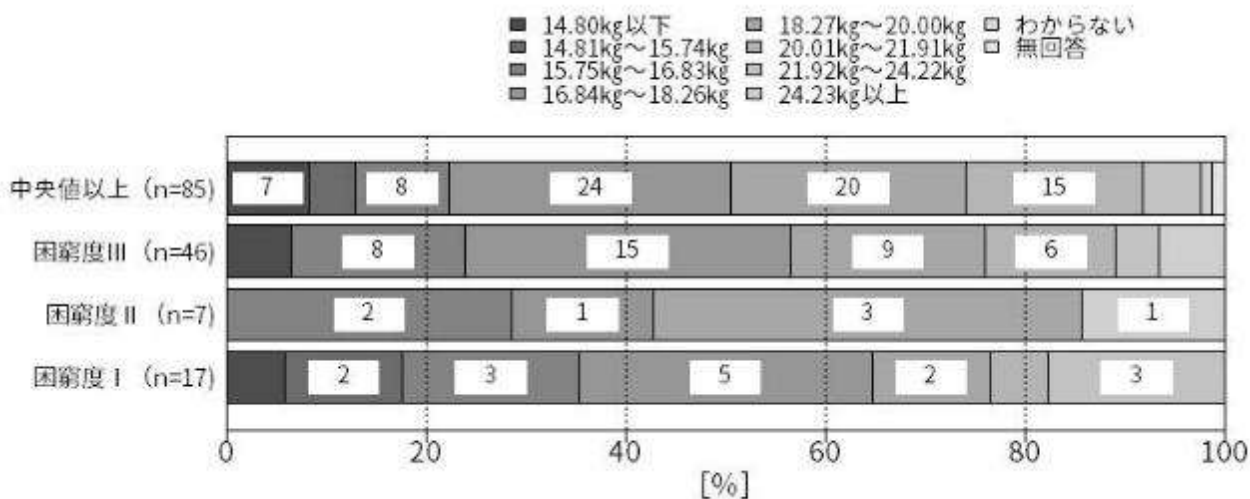


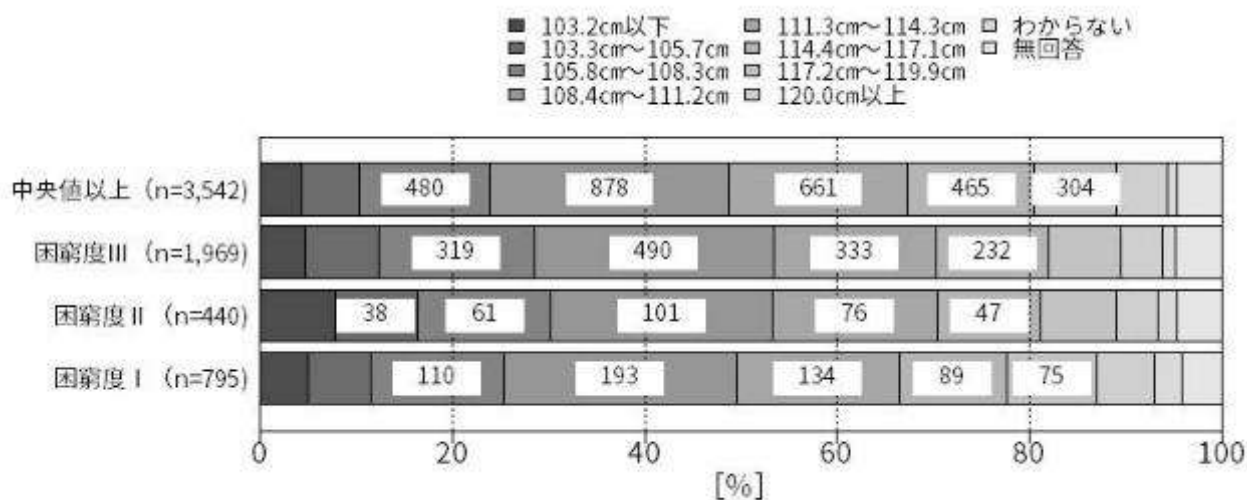
図 128. 困窮度別に見た、現在の体重＜女子＞

困窮度Ⅰ群・困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度と現在の体重（女子）に関係は見られなかった。

困窮度別に見た、現在の身長（問 14-1）＜男子＞

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

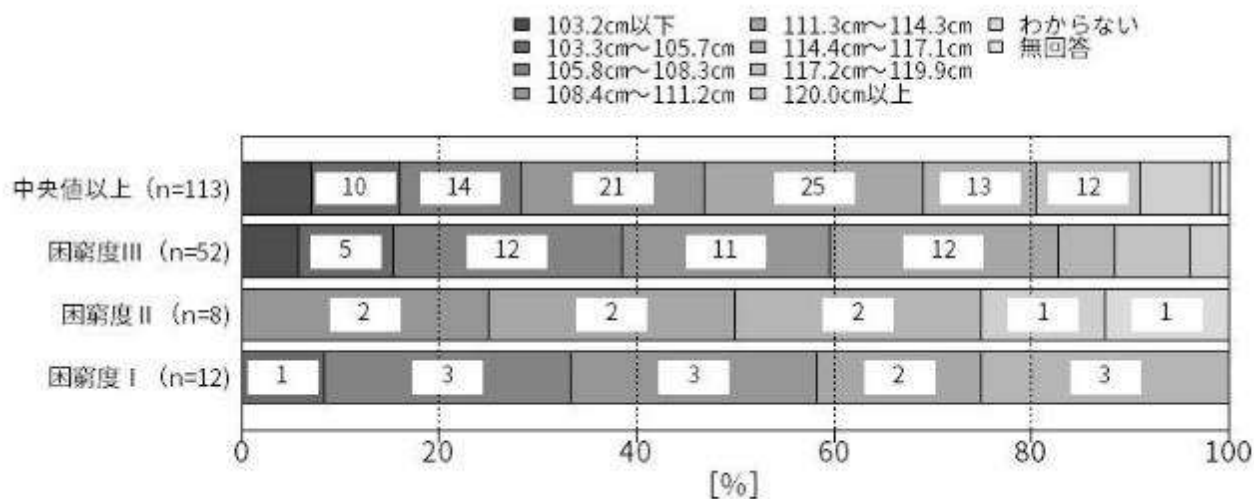


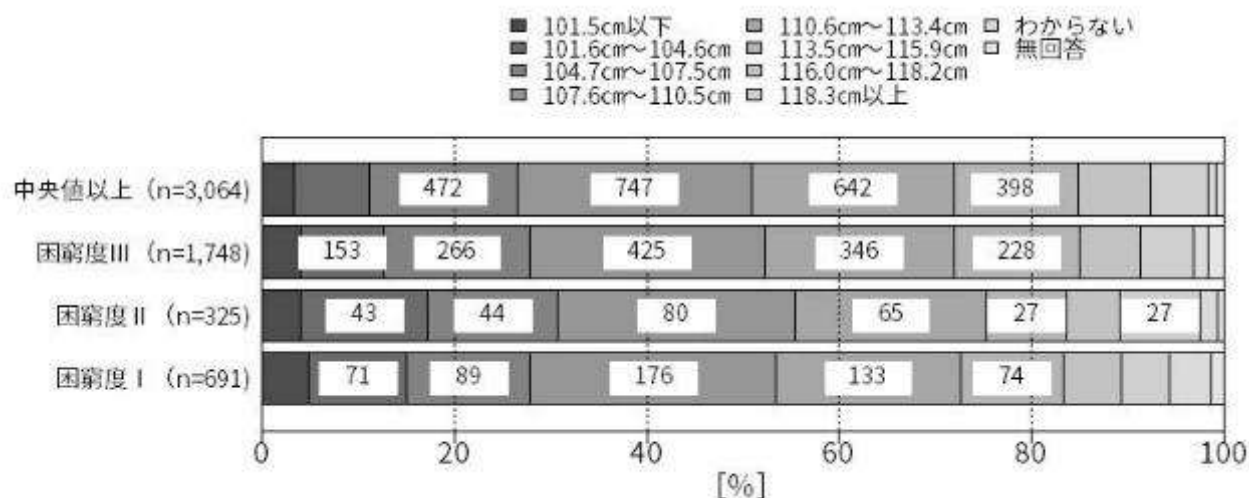
図 129. 困窮度別に見た、現在の身長＜男子＞

困窮度Ⅰ群・困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度Ⅲ群では中央値以上群に比べ、「105.8 cm～108.3 cm」「108.4 cm～111.2 cm」と回答した割合が高かった。

困窮度別に見た、現在の身長（問 14-2）＜女子＞

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市福島区＞

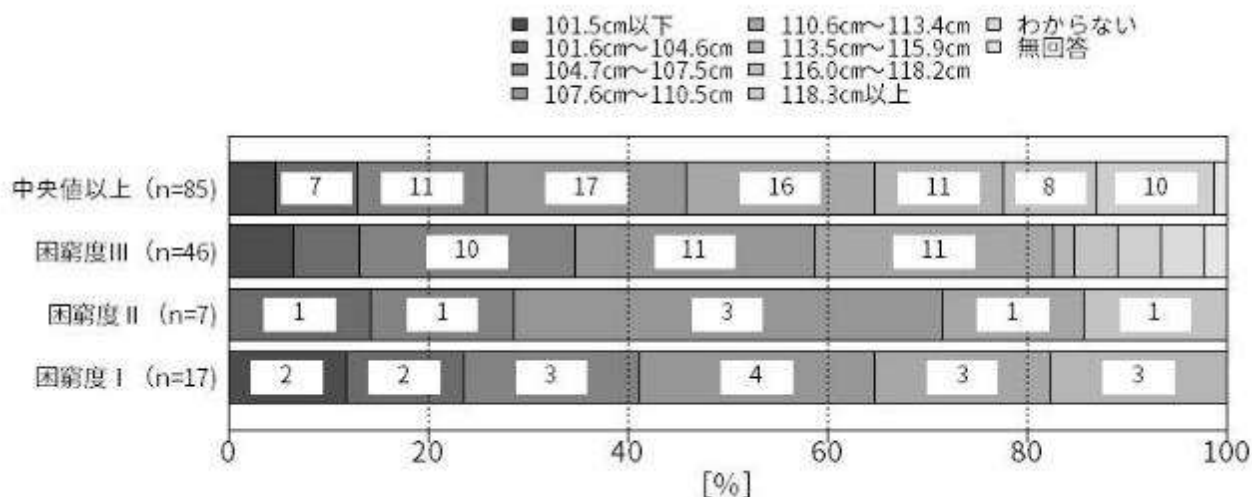


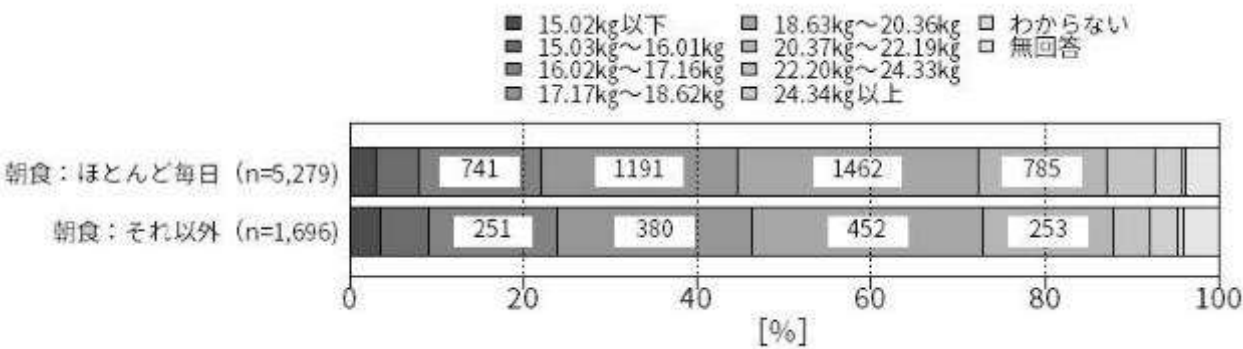
図 130. 困窮度別に見た、現在の身長＜女子＞

困窮度Ⅰ群・困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度Ⅲ群では中央値以上群に比べ、「104.7 cm～107.5 cm」と回答した割合が高かった。

朝食の頻度別に見た、現在の体重（問 17×問 13-1）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

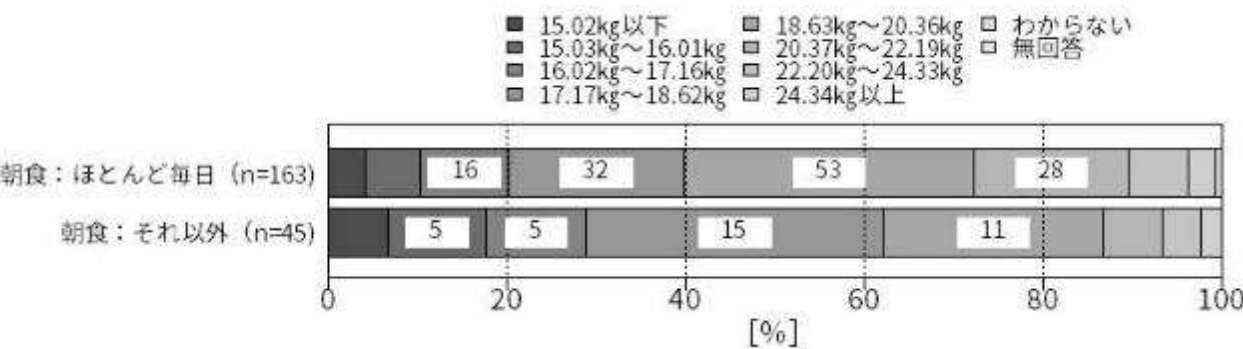
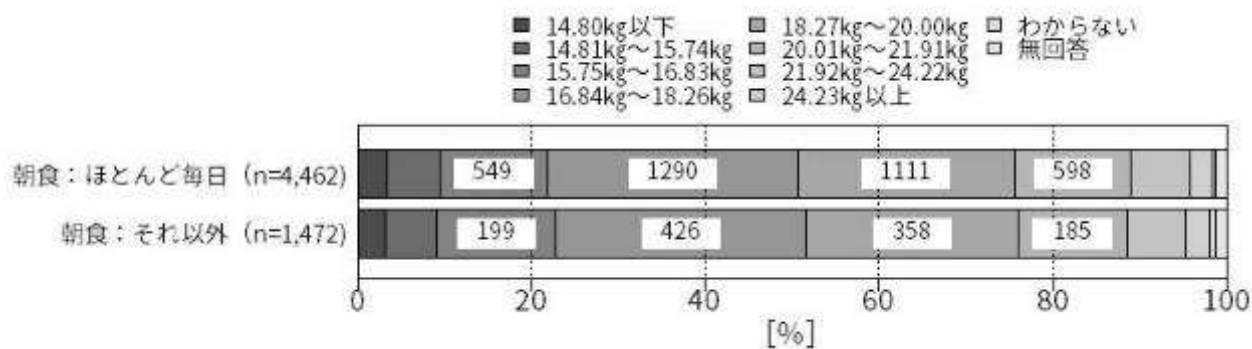


図 131. 朝食の頻度別に見た、現在の体重

朝食を毎日食べるわけではない男子は、「17. 17 kg～18. 62 kg」が多く、毎日食べる男子では「18. 63 kg～20. 36 kg」が多かった。

朝食の頻度別に見た、現在の体重（問 17×問 13-2）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

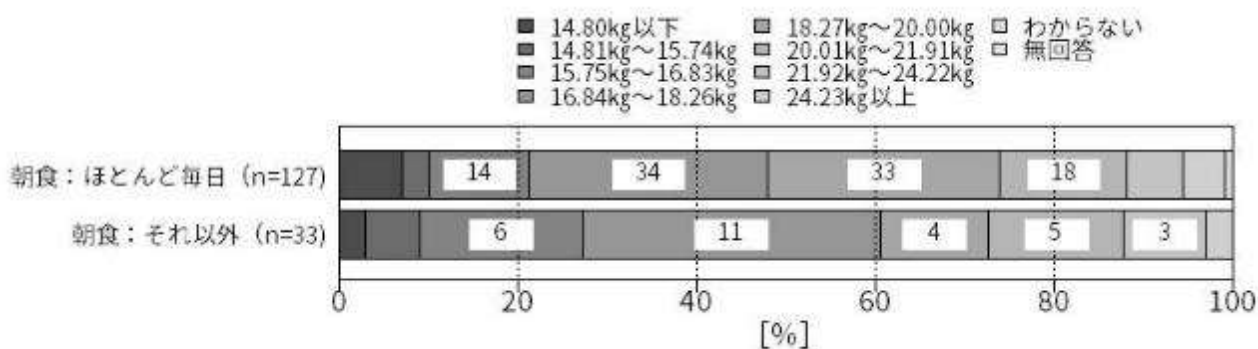
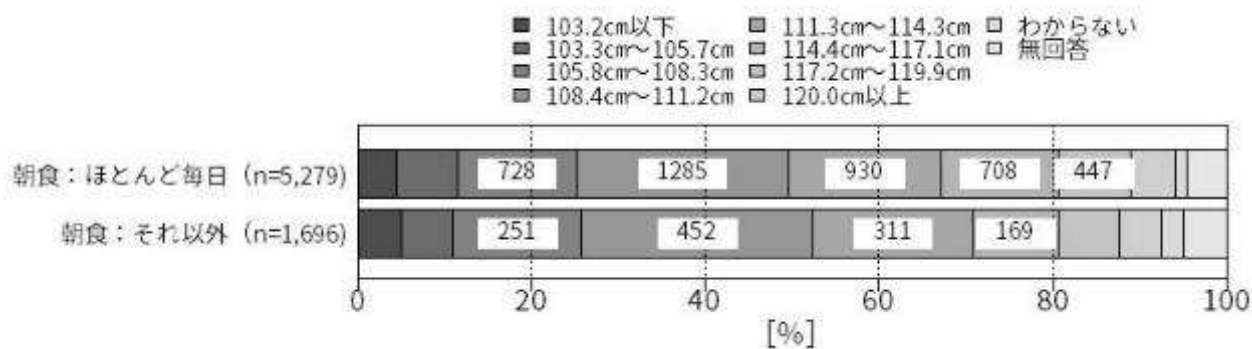


図 132. 朝食の頻度別に見た、現在の体重

朝食を毎日食べるわけではない女子は、「16.84 kg～18.26 kg」が多く、毎日食べる女子では「16.84 kg～18.26 kg」「18.27 kg～20.00 kg」が多かった。

朝食の頻度別に見た、現在の身長（問 17×問 14-1）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

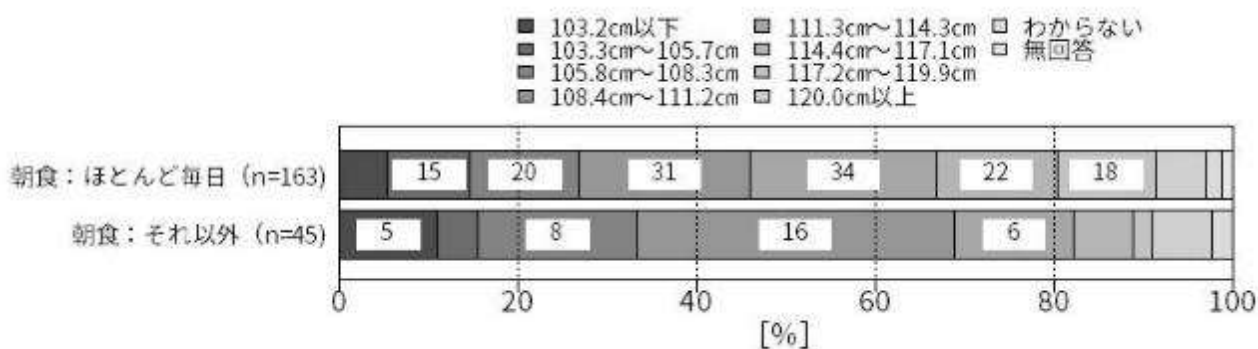
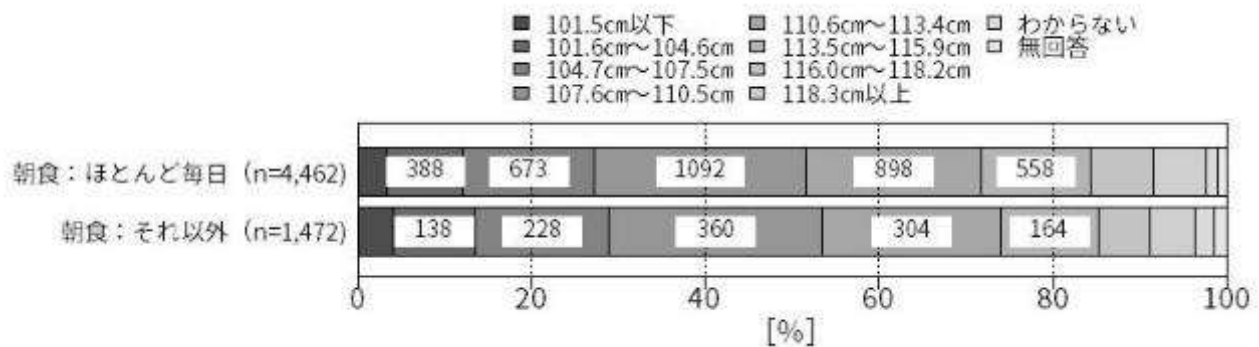


図 133. 朝食の頻度別に見た、現在の身長

朝食を毎日食べるわけではない男子は、「108.4 cm～111.2 cm」が多く、毎日食べる男子では「111.3 cm～114.3 cm」が多かった。

朝食の頻度別に見た、現在の身長（問 17×問 14-2）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

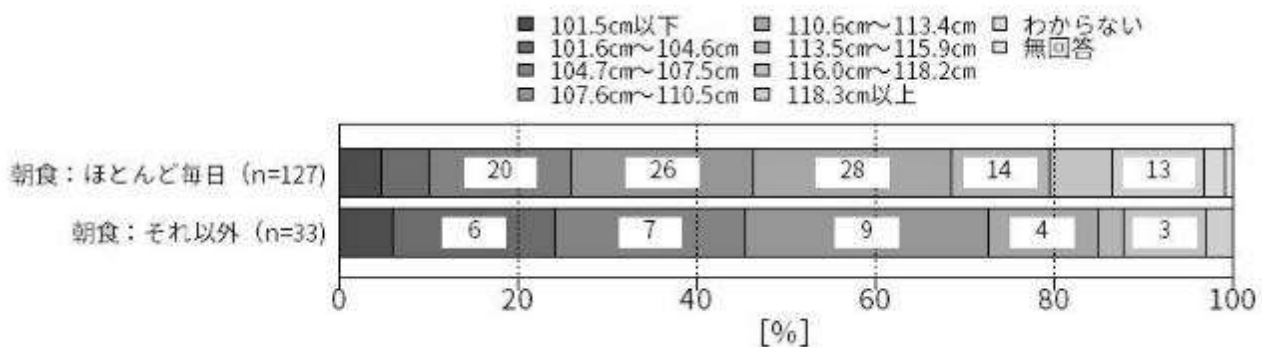
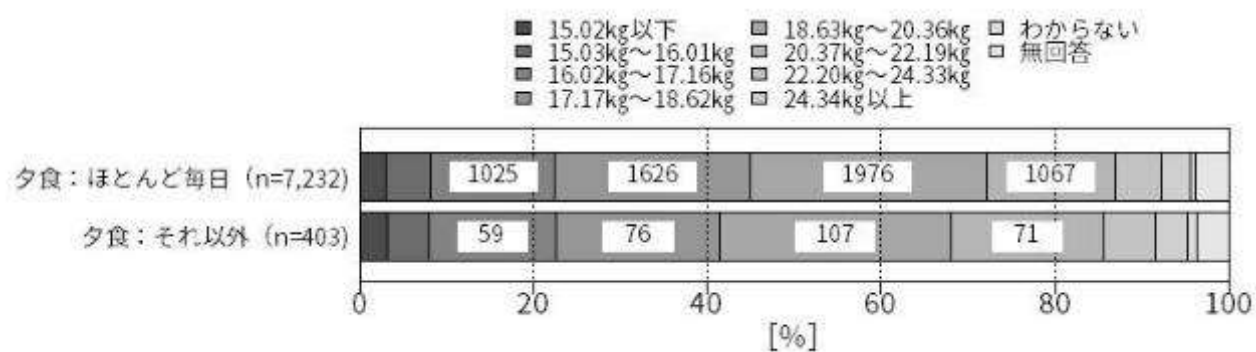


図 134. 朝食の頻度別に見た、現在の身長

朝食を毎日食べるわけではない女子は、「107.6 cm～110.5 cm」が多く、毎日食べる女子では「110.6 cm～113.4 cm」が多かった。

夕食の頻度別に見た、現在の体重（問 20×問 13-1）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

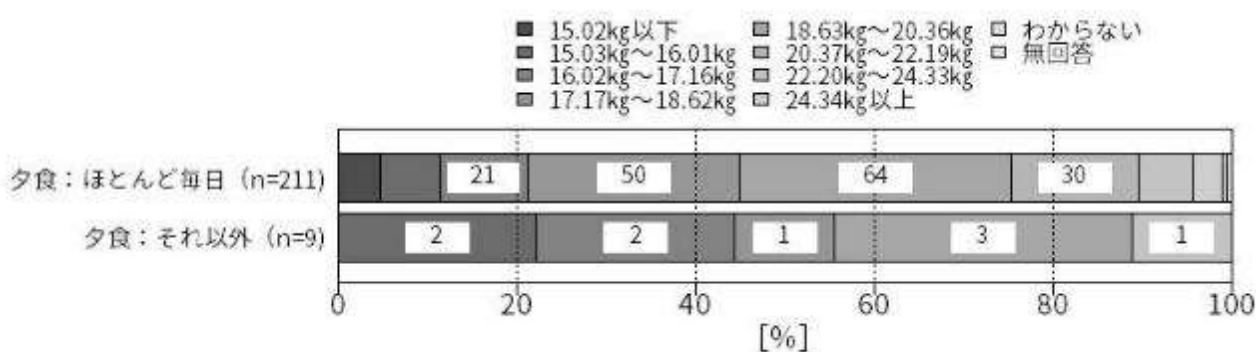
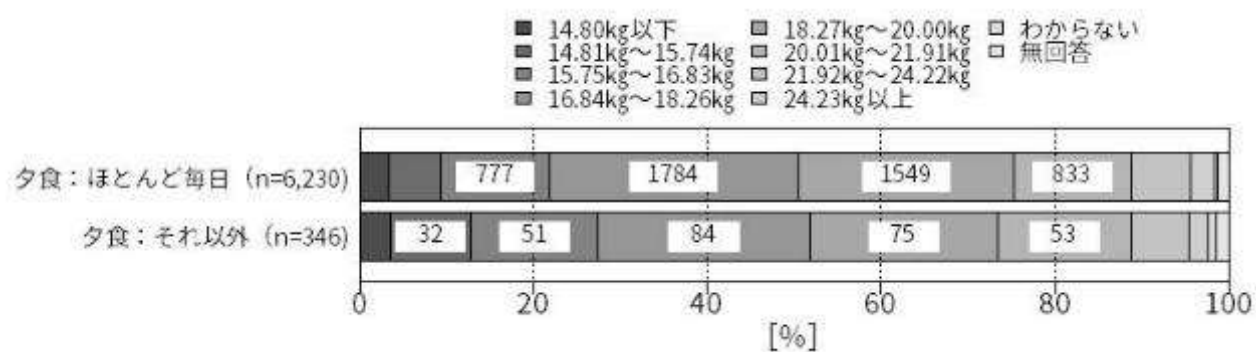


図 135. 夕食の頻度別に見た、現在の体重

夕食を毎日食べるわけではない男子は少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

夕食の頻度別に見た、現在の体重（問 20×問 13-2）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

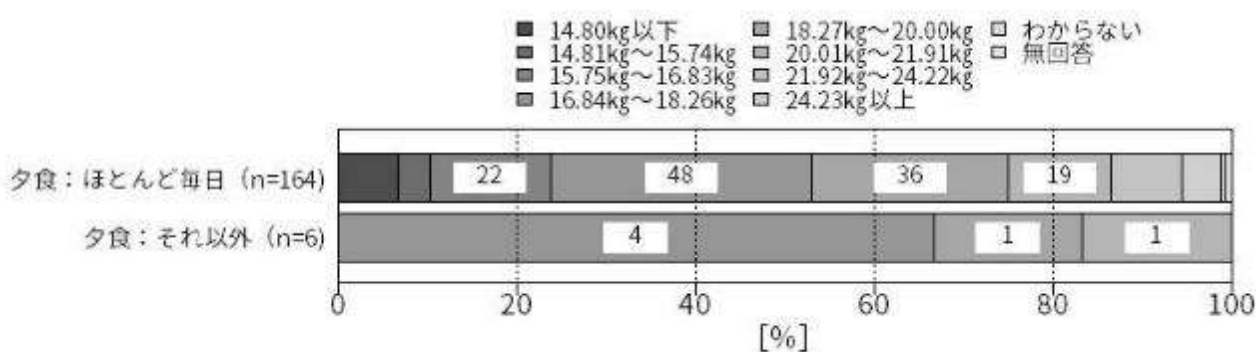
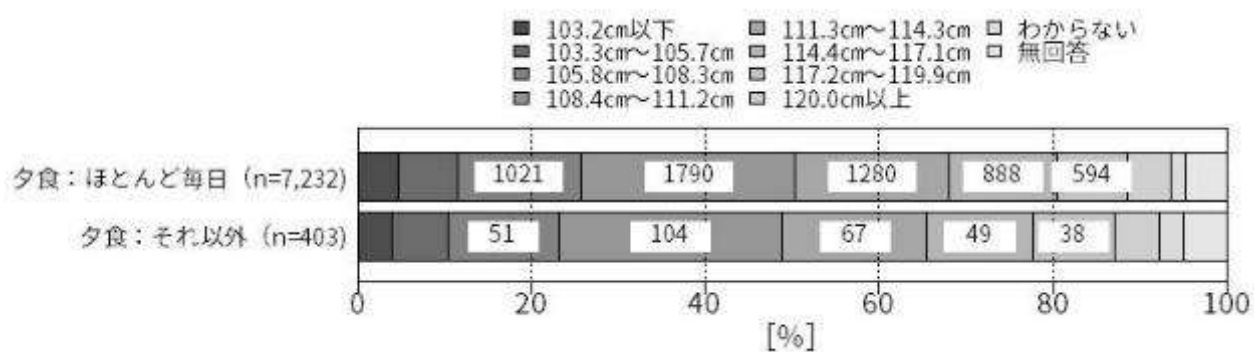


図 136. 夕食の頻度別に見た、現在の体重

夕食を毎日食べるわけではない女子は少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

夕食の頻度別に見た、現在の身長（問 20×問 14-1）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

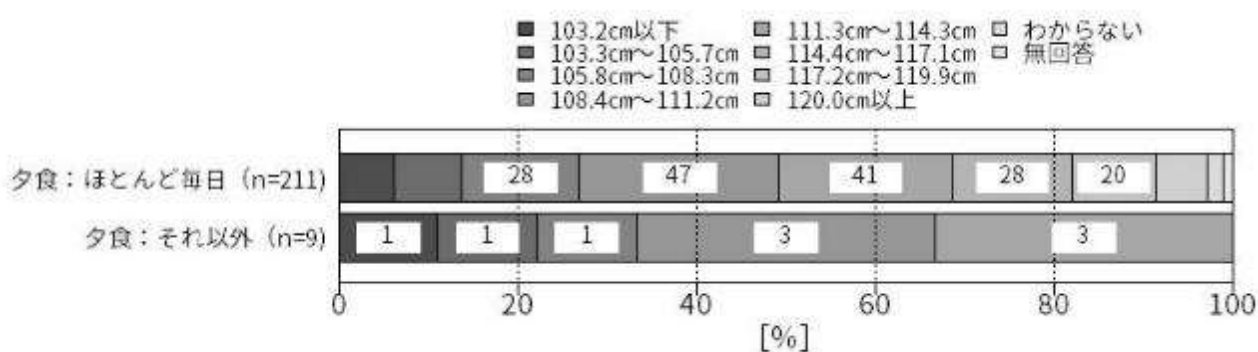
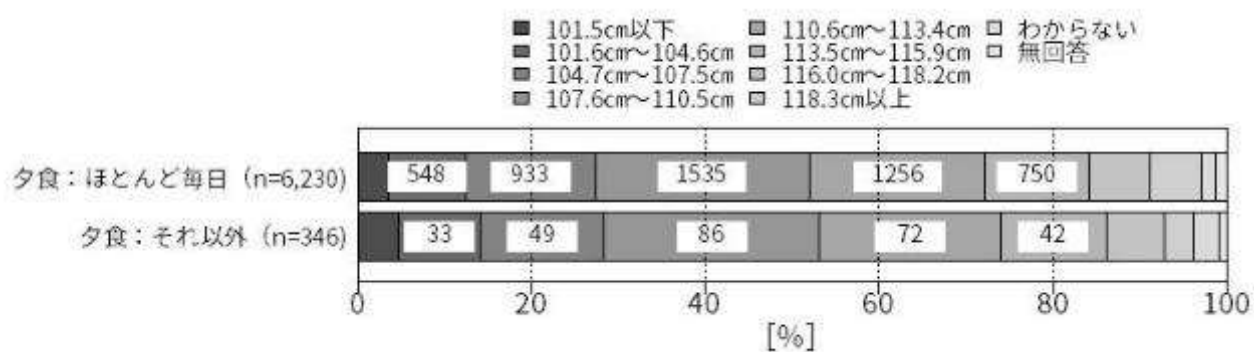


図 137. 夕食の頻度別に見た、現在の身長

夕食を毎日食べるわけではない男子は少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

夕食の頻度別に見た、現在の身長（問 20×問 14-2）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

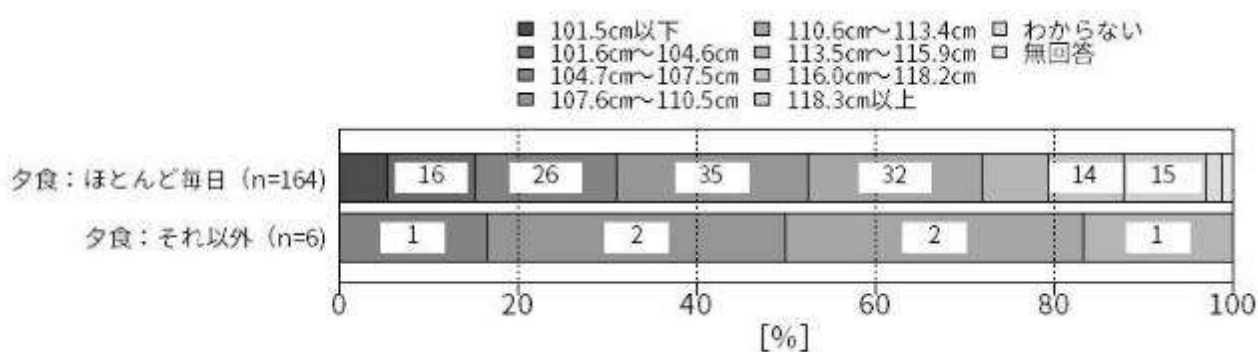
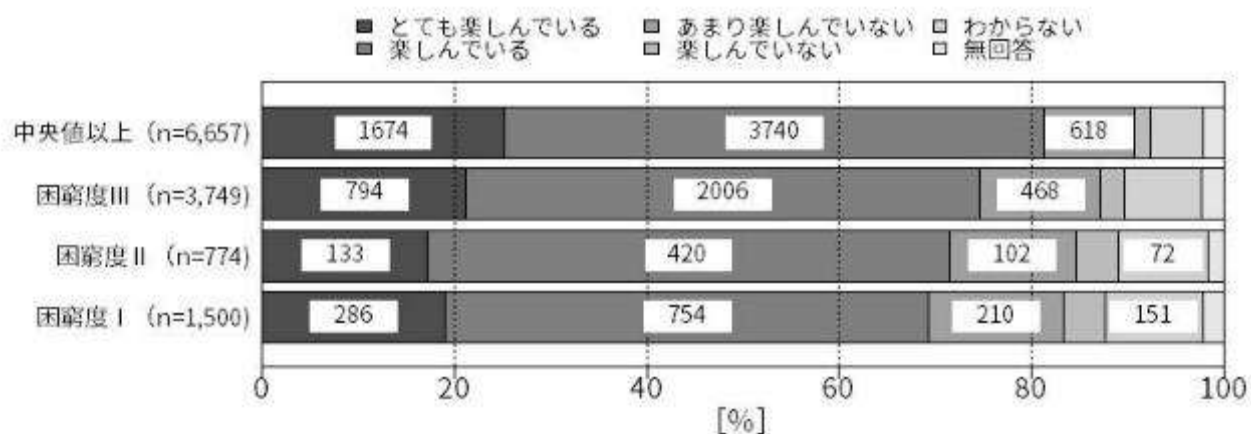


図 138. 夕食の頻度別に見た、現在の身長

夕食を毎日食べるわけではない女子は少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

困窮度別に見た、心の状態（１）生活を楽しんでいる（問 36-1）

<大阪市 24 区>



<大阪市福島区>

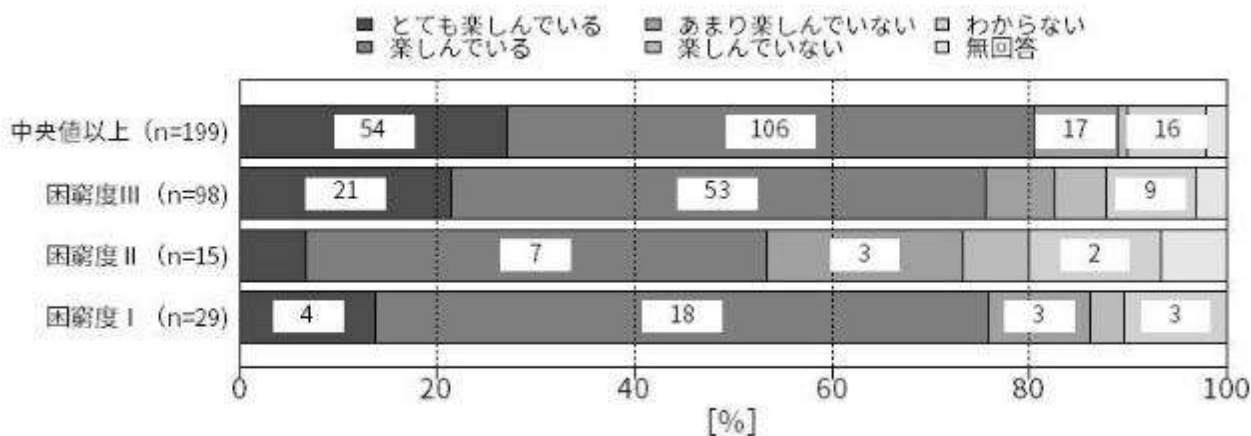


図 139. 困窮度別に見た、心の状態（１）生活を楽しんでいる

困窮度Ⅱ群は人数が少ないため、この群と比較して傾向を述べることはできないため、他の群にのみ着目する。

困窮度が厳しくなるにしたがって、「とても楽しんでいる」割合が低くなる傾向にあり、困窮度Ⅰ群においては 13.8%であった。